

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

水道事業会計【茅野市】

事務事業名	水道事業経営管理事務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040102
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	笠原 郁子	連絡先	653

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり											
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実											
				細施策	01	上水道の安定供給											
				事務事業	01	供給安定性の向上事業											
	予算事業名						会計コード	021	款	01	項	01	目	04	事業	—	
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	水道事業の財政計画、財源確保、経理など、水道事業を運営するために必要となる経営管理事務です。															
	現状と背景 （どうして）	水道事業を運営するにあたっては、財政計画、財源確保、経理などの経営管理が必要となります。															
	目的	対象	受益者 （誰のために）	水道使用者													
			対象 （直接働きかける）	水道事業													
		意図 （どんな状態にしたいか）	健全な事業運営を行います。														
	手段・方法 （どうやって）	水道事業の財政計画、建設財源の確保、経理など水道事業の経営管理を行います。 (1) 財政計画の策定（投資計画、維持管理計画、使用料設定 他） (2) 予算・決算の作成 (3) 使用料の設定・改定 (4) 建設改良積立金の管理・起債借入等による建設財源の確保 (5) 経理事務															
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値									
		財政計画の策定	経常収支	千円	経常収支の値			100,000									
	財政計画の策定	累積資金過不足額	億円	累積資金過不足額（平成18年度末の額を維持）			21										
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値									
	決算	料金回収率	%	供給単価/給水原価			100										

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	178,036,000	200,090,000	194,962,000	130,123,741	163,587,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	162,387,000	183,890,000	178,474,000	121,849,741	155,313,000	
	一般財源	円	15,649,000	16,200,000	16,488,000	8,274,000	8,274,000	
	職員数							
	正規職員	人	1.75	1.50	1.50	1.50	1.50	
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人	1.75	1.50	1.50	1.50	1.50		
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	3,171.00	3,574.00	3,496.00	2,344.00	3,157.00		
活動指標	経常収支	目標	千円	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
		実績		238,545	210,107	175,852	113,697	113,697
	達成率	%	238.55	210.11	175.85	113.70	113.70	
	累積資金過不足額	目標	億円	21	21	21	21	21
		実績		28	30	29	30	30
	達成率	%	133.33	142.86	138.10	142.86	142.86	
—	目標	—	—	—	—	—		
実績	—	—	—	—	—	—		
達成率	%	—	—	—	—	—		
成果指標	料金回収率	目標	%	100	100	100	100	100
		実績		123	116	113	109	109
	達成率	%	123.00	116.00	113.00	109.00	109.00	
	—	目標	—	—	—	—	—	
実績	—	—	—	—	—	—		
達成率	%	—	—	—	—	—		
備考	市民プランの細施策において縦断的な事業です。対象細施策の政策体系番号 05040105							

事務事業名	水道事業経営管理事務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040102
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	笠原郁子	連絡先	653

期	目標	実績	課題
第1期	平成28年度決算書を作成する。	平成28年度決算書を作成した。	特になし
第2期	決算の内容を分析し次年度へつなげる。	決算内容を基に後年度の財政計画を作成した。	特になし
第3期	予算要求書の作成	予算要求書の提出	特になし
第4期	平成30年度の予算書作成。	予算書作成	特になし

事中評価																					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>向</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>性</td> <td>性</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今	成果の方向性	②	⑤	⑦	後	の	③	⑥	⑨	方	向	④	⑧	⑩	性	性	①		
今	成果の方向性	②	⑤	⑦																	
後	の	③	⑥	⑨																	
方	向	④	⑧	⑩																	
性	性	①																			
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	<p>皆減縮小現状維持 拡大 コスト投入の方向性</p>																				

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																

課題	内部留保資金の適正な水準と投資可能額の算定を進めていく必要があります。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定		
前年度評価シート整理番号	05040103	

総合評価	細施策評価前	細施策評価後
経営管理に係る経費は、できるだけ安価に抑える努力をしています。	経営管理に係る経費は、できるだけ安価に抑える努力をしています。	経営管理に係る経費は、できるだけ安価に抑える努力をしています。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性	

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前	細施策評価後																																								
今後、更新事業が多くなることから、積立金等の内部留保資金や起債の残高に留意し、計画的に進める必要があります。	<table border="1"> <tr> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>向</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>性</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持 拡大 コスト投入の方向性</p>	成果の方向性	②	⑤	⑦	の	③	⑥	⑨	方	④	⑧	⑩	向	①			性				<table border="1"> <tr> <td>成果の方向性</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>の</td> <td></td> <td></td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>性</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持 拡大 コスト投入の方向性</p>	成果の方向性				の			レ	方				向				性			
成果の方向性	②	⑤	⑦																																							
の	③	⑥	⑨																																							
方	④	⑧	⑩																																							
向	①																																									
性																																										
成果の方向性																																										
の			レ																																							
方																																										
向																																										
性																																										
今後、更新事業が多くなることから、積立金等の内部留保資金や起債の残高に留意し、計画的に進める必要があります。	今後、更新事業が多くなることから、積立金等の内部留保資金や起債の残高に留意し、計画的に進める必要があります。	今後、更新事業が多くなることから、積立金等の内部留保資金や起債の残高に留意し、計画的に進める必要があります。																																								

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳沢昭弘
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

水道事業会計【茅野市】

事務事業名	上・下水道料金等賦課徴収事務	事業期間	平成 〇〇 ~ 〇〇 年度	整理番号	05040201
担当部署	都市建設部 水道課	営業係	作	担当者名	篠原道明
				連絡先	670

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
			施策 04 第4節 上・下水道の整備充実								
			細施策 01 上水道の安定供給								
			事務事業 01 供給安定性の向上事業								
	予算事業名		会計コード	021	款	01	項	01	目	04	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	上・下水道使用者、受益者に適正な料金、負担金の算定、賦課及び徴収を行う。また、収納管理を適正に行うとともに、未納者への納入督促及び催告を適正に行い、必要に応じて給水停止処分及び滞納処分を実施することにより収納率向上を目指す。										
現状と背景 （どうして）	上・下水道会計の収益の確保及び適正に料金を算定するため、検針並びに休開始業務等を効率性を考慮して委託し、漏水等で料金が増える使用者に対しては的確に通知するよう努めている。また、景気低迷により、料金の未納額が増加傾向にある。										
目的	対象	受益者 （誰のために）	上・下水道使用者								
	対象	対象 （直接働きかける）	上・下水道使用者（未納者含む）								
的	意図 （どんな状態にしたいか）	上・下水道料金の適正な算定及び料金の収納率向上。									
手段・方法 （どうやって）	料金等を適正に算定するため、水道メーター検針数値の確定及び使用者並びに口座登録後の再確認を行う。収納率向上を目指すし、未納者への定期的な訪問及び電話による催告や集金の実施、大口未納者との折衝、転居時の住所の確認、口座振替の推進、早期給水停止処分等の実施により未納額が増加しないようにする。										
	（この欄は、目的・意図を達成するための手段・方法を記載する。）										
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値		
		口座振替の推進	口座登録率	%	口座登録件数／延べ賦課件数				100		
		給水停止による納入催告	給水停止納入率	%	納入額／給水停止対象額				100		
	転出者向け市長印催告	催告書納入率	%	納入額／市長印催告対象額				100			
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値		
		収納率の向上	水道料金収納率	%	収納額／現年度調定額				100		
収納率の向上		下水道使用料収納率	%	収納額／現年度調定額				100			

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
実 施 状 況	事業費等 (a)	円	49,200,574	47,413,863	48,685,735	50,388,910	52,251,000
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	49,200,574	47,413,863	48,685,735	50,388,910	52,251,000
	一般財源	円					
職 員 数	正規職員	人	6.00	6.00	6.00	6.00	6.00
	嘱託職員	人	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
	臨時職員	人	3.00	3.00	3.00	3.00	2.00
	合計	人	11.00	11.00	11.00	11.00	10.00
対 象 （ 者 ） 数	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
単 位 コ ス ト	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—
	受益者負担額	円					
市 民 一 人 当 た り の コ ス ト	市民一人当たりのコスト	円	876.00	847.00	873.00	908.00	1,921.00
	目標	%	100	100	100	100	100
活 動 指 標	口座登録率	実績	72	78	79	79	79
		達成率	71.85	78.00	79.37	78.70	79.00
	給水停止納入率	目標	100	100	100	100	100
		実績	20	22	28	28	28
	達成率	20.00	22.00	28.10	28.20	28.00	
	市長印催告納入率	目標	100	100	100	100	100
実績		14	14	14	14	14	
達成率	—	—	—	13.50	14.00		
成 果 指 標	水道料金収納率	目標	100	100	100	100	100
		実績	90	91	91	91	91
	達成率	90.23	90.51	90.68	90.53	91.00	
	下水道使用料収納率	目標	100	100	100	100	100
実績		87	89	86	87	87	
達成率	86.64	88.93	86.15	87.08	87.00		
備 考	平成20年4月1日水道課・下水道課統合により、事務事業集約 市民プランにおいて横断的な事業である。対象細施策体系番号05040202、06070207 給水停止納入率及び収納率の確定は5月末になる。平成26年度から下水道受益者負担金事務を統合した。						

事務事業名	上・下水道料金等賦課徴収事務	事業期間	平成	~	年度	整理番号	05040201
担当部署	都市建設部	水道課	営業係	作成担当者名	篠原道明	連絡先	670

期	目標	実績	課題
第1期	給水停止処分による納入率向上 別荘地区給停処分による納入率向上 市外転出未納者の実態把握	処分件数:90、入金額:4,136千円、納入率:40.9% 処分件数:5、入金額:158千円、納入率:25.9% 総数:378者、1403期、9,275,659円の未納	未納のまま市外へ転出し、その後、居所不明となり地徴収困難ケースになる者への対応。
第2期	給水停止処分による収納率向上 観光地未納者への納入督促強化 市外転出者への納入催告	処分件数:70、入金額:2,580千円、納入率:23.8% 白樺湖地区:1,000千円、車山地区:154千円 催告件数:56、入金額:163千円、納入率:16.1%	観光地、大口滞納者1名から100万円の入金まで持ち込んだが、それ以外の者からの大口入金はない。
第3期	給水停止処分による収納率向上 観光地未納者への納入督促強化 市外転出者への納入催告	処分件数:78、入金額:3,892千円、納入率:32.0% 白樺・夢科・車山地区:18名、231千円、11.1% 催告件数:56、入金額:163千円、納入率:16.1%	給水停止処分による納入件数は高いが、分割納付になるケースが多く収納率が上がらない。
第4期	給水停止処分による収納率向上 大口・悪質未納者への納入督促強化 市外転出者への納入催告	処分件数:67、入金額:3,151千円、納入率:20.2% 給停継続者:18名、入金額:81千円、7.6% 催告件数:56、入金額:163千円、納入率:16.1%	給停継続者向けに実態調査を兼ね納入催告を試み、4名から入金があった。引き続き注視していく。

事 中 評 価																	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 収納率向上のためには、これまで同様、口座振替の推進と早期給水停止処分に に加え、下水道滞納処分を検討していく必要がある。	今 後 の 方 向 性																
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 新年度に向けては上下水道料金に加え、下水道受益者負担金の収納率向上に むけ、未賦課地の抽出作業を行いたい。予算≒200千円(ハスカルウェア)	方 向 性																
	<table border="1"> <tr> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性</p>	成果の方向性	②	⑤	⑦	現状維持	③	⑥	⑨	縮小	④	⑧	⑩	休廃止	①		
成果の方向性	②	⑤	⑦														
現状維持	③	⑥	⑨														
縮小	④	⑧	⑩														
休廃止	①																

評価年度	
------	--

評価の観点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
チェック					4					4					4	A
課題	<p>メーター検針、漏水・不漏水調査を厳格に行うことで、上・下水道料金等の適正な賦課徴収に繋がる。また、収納率向上のために、口座振替の推進を図りながら、定期的に滞納整理票を出力し、適切な時期に給水停止処分及び滞納処分を実施することが必要であり、大口滞納者を増やさない策が求められる。</p>															
記号の定義	<p>A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	05040201															

総合評価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	前年度改革・改善策の実施状況	実施済					前年度細施策評価における今後の方向性			

改革・改善の方向性(ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	②	⑤	⑦						
現状維持	③	⑥	⑨							
縮小	④	⑧	⑩							
休廃止	①									
皆 減 縮 小 現状維持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性										
改革・改善策	<p>○検針及び休開控業務を的確に行うため、委託先への指導を行う。 ○研修会を開催し、検針員及び休開控作業員の資質の向上を目指す。 ○収納担当職員を研修会に参加させ、適正な債権管理を図る。 ○徴収担当地区を2チームから3チーム体制とし、収納率アップを図る。 ○本業務を今後、直営して行くことが良いか、包括的民間委託化をしていくことが良いのか検証する。</p>					<p>○検針及び休開控業務を的確に行うため、委託先への指導を行う。 ○研修会を開催し、検針員及び休開控作業員の資質の向上を目指す。 ○収納担当職員を研修会に参加させ、適正な債権管理を図る。 ○徴収担当地区を2チームから3チーム体制とし、収納率アップを図る。 ○本業務を今後、直営して行くことが良いか、包括的民間委託化をしていくことが良いのか検証する。</p>				

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

水道事業会計【茅野市】

事務事業名	配水管整備事業		事業期間	平成 14 ~ 年度	整理番号	05040302
担当部署	都市建設部	水道課	作成担当者名	篠原弘明	連絡先	667

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実							
				細施策	01	上水道の安定供給							
				事務事業	04	安全で良質な水の供給事業							
	予算事業名			会計コード	021	款	01	項	01	目	01	事業	43
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	単独工事を実施するとともに、道路新設事業、下水道工事等に合わせて、公道に配水管を布設して、水の安定給水の確保と市民サービスの向上を図るとともに、民有地に布設されている共用給水管の解消を図る。											
	現状と背景 （どうして）	簡易水道を引き受けた歴史から、公道に配水管が布設されていない。また、民地内に共用管が布設されている。管口径も細く給水に支障をきたしている。											
	目的	受益者 （誰のために）	給水区域内住民										
		対象 （直接働きかける）	同上										
	的 意 図 （どんな状態にしたいか）	民有地に布設されている配水管・共用給水管を廃止して、公道に配水管を新設する。 漏水事故等に対応できる管網（ループ化）の整備を行う。											
	手段・方法 （どうやって）												
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		新設する配水管	配水管布設延長	km	年間の配水管の布設延長			63					
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		新設する配水管	単年度配水管布設延長	km	配水管の布設延長			1					

実施状況	項目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	155,098,914	83,995,614	45,427,590	19,030,118
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	155,098,914	83,995,614	45,427,590	19,030,118	30,400,000	
職員数	一般財源	円						
	正規職員	人	1.10	0.80	0.50	0.50		
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
	合計	人	1.10	0.80	0.50	0.50		
状況	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
O （ ）	活動指標	配水管布設延長	目標	km	63	63	63	63
			実績	km	51	52	53	55
		達成率	%	80.95	82.54	84.13	85.71	87.30
	-	-	目標	-	-	-	-	-
			実績	-	-	-	-	-
		達成率	%	-	-	-	-	-
	成果指標	単年度配水管布設延長	目標	km	2	2	2	1
			実績	km	2	1	1	1
		達成率	%	100.00	50.00	50.00	100.00	100.00
	-	-	目標	-	-	-	-	-
			実績	-	-	-	-	-
	達成率	%	-	-	-	-	-	
備考								

事務事業名	配水管整備事業	事業期間	平成 14 ~	年度	整理番号	05040302
担当部署	都市建設部	水道課	上水道整備係	作成担当者名	篠原 弘明	連絡先
						667

期	目 標	実 績	課 題
第1期	事業予定箇所25%を目標に工事発注する。	他事業との調整を行い事業予定箇所25%を工事発注できた。	関連工事の計画に合わせて工事を計画する。
第2期	事業予定箇所50%を目標に工事発注する。	他事業との調整を行い設計発注準備を進めた。	関連工事の計画に合わせて工事を計画する。
第3期	事業予定箇所80%を目標に工事発注する。	他事業との調整を行い事業予定箇所50%を工事発注できた。	冬期間の施工とならないよう、他事業と工程調整が必要である。
第4期	事業予定箇所の早期完成に努める。	関連工事と調整を密に行い計画通りの工程にて工事が竣工できた。	冬期間の施工とならないよう、他事業と工程調整し計画的に事業を実施する。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 道路改良やその他事業に合わせ計画を検討する。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	<p>管路延長が年々増加しているため、効率的な整備を進めるためには市県道の道路改良事業や下水道事業等のその他事業と整合を図りながら事業を計画する必要がある。民地内に設置されている管路の解消や、ループ化（管網）し上水道の安定供給に努めることが必要。</p>															
記号の定義	<p>A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	05040302															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	安定した水圧や水量にて供給ができるよう、新たな水道管の整備を図る必要がある。 民地内の配管廃止や未整備区域内についても今後整備計画的に整備していく必要がある。						安定した水圧や水量にて供給ができるよう、新たな水道管の整備を図る必要がある。 民地内の配管廃止や未整備区域内についても今後整備計画的に整備していく必要がある。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 (ACTION)	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充		
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
方向性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
方向性	休 廃 止	①				休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	<p>供用給水管や民地内に布設されている管路を市道内へ布設替えが必要であるが、管路延長が700kmを超えているため、効率的な整備計画の検討が必要である。 また、安定した水圧・水量を確保するため、ループ化によるバックアップ体制の強化は必要である。他事業との調整を図りコスト縮減し整備を進めていく必要がある。</p>					<p>供用給水管や民地内に布設されている管路を市道内へ布設替えが必要であるが、管路延長が700kmを超えているため、効率的な整備計画の検討が必要である。 また、安定した水圧・水量を確保するため、ループ化によるバックアップ体制の強化は必要である。他事業との調整を図りコスト縮減し整備を進めていく必要がある。</p>				

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

#N/A

事務事業名	原水・浄水事業	事業期間	平成 〇〇 年度	整理番号	05040101
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	作成担当者名	鷹野 鉄也
				連絡先	665

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり			
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実			
				細施策	01	上水道の安定供給			
				事務事業	01	供給安定性の向上事業			
	予算事業名			会計コード		款	項	目	事業
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	上水道の原水を得るため、水利権のある区、財産区等と原水料金の契約や支払いや水道施設のため借りている土地の賃貸借契約と支払いを行う。 また、原水浄水について水道法に基づく、水質検査項目を検査頻度に応じ水質検査を行う。							
	現状と背景 （どうして）	上水道の安全安定供給							
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	上水道の需要者						
		対象 （ 直 接 働 き か け る ）	同上						
		意図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	上水道の安全安定供給						
	手段・方法 （ ど う や っ て ）	支払い事務の遂行 水質検査の徹底							
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		水質検査の実施	水質検査の実施	箇所	原水48箇所、浄水31箇所の検査実施			79	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値	
		上水道の安定供給	水質の安全性	%	原水浄水の水質の安全箇所/79×100			100	

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
実 施 状 況 （ ）	事業費等 (a)	円	129,190,407	124,027,935	102,895,242	114,743,901	127,025,000
	財源内訳						
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	129,190,407	124,027,935	102,895,242	114,743,901	127,025,000
職 員 数	正規職員	人	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
合	人	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	
対 象 （ 者 ） 数	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
単 位 コ ス ト	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
市 民 一 人 当 た り の コ ス ト	市民一人当たりのコスト	円	2,301.00	2,216.00	1,845.00	2,067.00	2,470.00
	活 動 指 標 （ ）	水質検査の実施	目標	箇所	79	79	79
実績				79	79	79	79
達成率			%	100.00	100.00	100.00	100.00
-		目標					
		実績					
		達成率	%	-	-	-	-
成 果 指 標 （ ）	水質の安全性	目標	%	100	100	100	100
		実績		100	100	100	100
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00
	-	目標					
		実績					
		達成率	%	-	-	-	-
備 考							

事務事業名	原水・浄水事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040101
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	作成担当者名	鷹野 鉄也	連絡先	665

期	目 標	実 績	課 題
第1期	上水道の原水を得るため、水利権のある区、財産区等と原水料金の契約や支払いや水道施設のため借りている土地の賃貸借契約と支払いを行う。	上水道の原水を得るため、水利権のある区、財産区等と原水料金の契約や支払いや水道施設のため借りている土地の賃貸借契約と支払いの確認。	確認の結果、原契約の期限が迫っているもの、切れているものの更新があった。
第2期	原水浄水について水道法に基づく、水質検査項目を検査頻度に応じ水質検査を行う。	水道法に則り検査を行った。	塵の増加によるクリプト対策。
第3期	落ちのない契約更新、水質検査の実施。	契約更新、水質検査の再調査の実施。	調査結果の実行。
第4期	契約の更新、支払いの実施。	契約、検査共に滞りなく実施した。	今後も細心の注意を払い事務処理を行う。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	無し															
記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号																

細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
上水道の安定供給には必要な事業である。	上水道の安定供給には必要な事業である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後																																
成果の方向性	<table border="1"> <tr><td>拡 充</td><td>②</td><td>⑤</td><td>⑦</td></tr> <tr><td>現 状 維 持</td><td>③</td><td>⑥</td><td>⑨</td></tr> <tr><td>縮 小</td><td>④</td><td>⑧</td><td>⑩</td></tr> <tr><td>休 廃 止</td><td>①</td><td></td><td></td></tr> </table>	拡 充	②	⑤	⑦	現 状 維 持	③	⑥	⑨	縮 小	④	⑧	⑩	休 廃 止	①			<table border="1"> <tr><td>拡 充</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>現 状 維 持</td><td></td><td></td><td>レ</td></tr> <tr><td>縮 小</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>休 廃 止</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	拡 充				現 状 維 持			レ	縮 小				休 廃 止			
拡 充	②	⑤	⑦																															
現 状 維 持	③	⑥	⑨																															
縮 小	④	⑧	⑩																															
休 廃 止	①																																	
拡 充																																		
現 状 維 持			レ																															
縮 小																																		
休 廃 止																																		
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性																																
改革・改善策	上水道を安全安心して供給するために、原水浄水について水道法に基づく、水質検査項目を検査頻度に応じ水質検査を行う。	上水道を安全安心して供給するために、原水浄水について水道法に基づく、水質検査項目を検査頻度に応じ水質検査を行う。																																

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------



平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

水道事業会計【茅野市】

事務事業名	取水・送水ポンプ整備事業	事業期間	平成 16 ~ 年度	整理番号	05040103
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	作成担当者名	小平 晃
				連絡先	665

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実
				細施策	01	上水道の安定供給
				事務事業	03	老朽管の改良・更新事業
	予算事業名			会計コード	021	款 01 項 01 目 02 事業
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	永年使用により、能力低下及び腐食した取水ポンプ・送水ポンプ並びに配管の取替を計画的に行う。				
	現状と背景 （どうして）	永年使用した取水ポンプ・送水ポンプは、能力低下を起こし、腐食した揚水管やポンプ回りの配管は水質悪化の原因となる恐れがあるため、給水が停止しないよう定期的に交換を行っている。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	受益者			給水区域内の市民や公共施設・事業所等
		対象 （直接働きかける）	水道施設			
	手段・方法 （どうやって）	安定した水道水の供給と錆等のない衛生的な水を供給する。				
（ N ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		耐用年数の経過したポンプの更新	更新台数	台	累積更新ポンプ台数（平成16年～23年）	29
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		ポンプの正常な運転	ポンプの非故障率	%	(44年間に故障したポンプの台数) / 44 (すべてのポンプ台数) × 100	100

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
実 施 状 況	事業費等 (a)	円	43,750,800	14,137,200	14,488,200	27,846,396	43,768,000
	財源内訳						
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	43,750,800	14,137,200	14,488,200	27,846,396	43,768,000
職 員 数	一般財源	円					
	正規職員	人	0.20	1.00	1.00	1.00	1.00
	嘱託職員 臨時職員	人					
合計	人	0.20	1.00	1.00	1.00	1.00	
（ D ）	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
（ O ）	活動指標	更新台数	目標	4	4	4	4
			実績	4	4	4	4
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00
	-	目標	-	-	-	-	
		実績	-	-	-	-	
		達成率	%	-	-	-	-
	-	目標	-	-	-	-	
		実績	-	-	-	-	
		達成率	%	-	-	-	-
	成果指標	ポンプの非故障率	目標	100	100	100	100
			実績	100	100	100	100
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00
-	目標	-	-	-	-		
	実績	-	-	-	-		
	達成率	%	-	-	-	-	
備考							

事務事業名	取水・送水ポンプ整備事業	事業期間	平成 16 ~	年度	整理番号	05040103	
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	作成担当者名	小平 晃	連絡先	665

期	目 標	実 績	課 題
第1期	永年使用により、能力低下及び腐食した取水ポンプ・送水ポンプ並びに配管の取替。	日常点検の実施	永年使用した取水ポンプ・送水ポンプは、能力低下を起こすことがある。
第2期	永年使用により、能力低下及び腐食した取水ポンプ・送水ポンプ並びに配管の取替。	日常点検の実施	腐食した揚水管やポンプ回りの配管は水質悪化の原因となる恐れがある。
第3期	永年使用により、能力低下及び腐食した取水ポンプ・送水ポンプ並びに配管の取替。	日常点検の実施	給水が停止しないよう定期的に交換を行う。
第4期	永年使用により、能力低下及び腐食した取水ポンプ・送水ポンプ並びに配管の取替。	日常点検の実施	給水が停止しないよう定期的に交換を行う。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	ポンプ単価が高額なため、耐用年数いっぱいまで使用し更新したいが、故障による断水はリスクが高いため見極めが要求される。															
CHICK	前年度総合評価判定															
CHICK	前年度評価シート整理番号 05040406															

細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
ポンプ施設の更新は、水道水の安定供給には欠かせない事業であるので、故障してからの対応ではなく、計画的に進めていくことが適当である。	ポンプ施設の更新は、水道水の安定供給には欠かせない事業であるので、故障してからの対応ではなく、計画的に進めていくことが適当である。
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性

今 後 の 方 向 性	細 施 策 評 価 前	細 施 策 評 価 後
成果の方向性	拡 充 ② ⑤ ⑦ 現 状 維 持 ③ ⑥ ⑨ 縮 小 ④ ⑧ ⑩ 休 廃 止 ①	拡 充 現 状 維 持 縮 小 休 廃 止
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性
改革・改善策	ポンプの寿命を延ばすため、湧水利用を促進する。	ポンプの寿命を延ばすため、長寿命になるような点検整備を行う。また、湧水利用を促進する。

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

#N/A

事務事業名	上水道施設の維持管理事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040102
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	作成担当者名	鷹野 鉄也	連絡先	665

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり			
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実			
				細施策	01	上水道の安定供給			
				事務事業	02	維持管理システムの構築事業			
	予算事業名				会計コード	款	項	目	事業
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	水道施設に係る維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整を行う事業。							
	現状と背景 （どうして）	上水道の安定供給							
	目的 的	対象 （誰のために）	上水道の受給者						
		対象 （直接働きかける）	上水道の受給者						
		意図 （どんな状態にしたいか）	上水道の安定供給						
	手段・方法 （どうやって）	水道施設及び配水流量の毎日点検の実施及び確認。水道施設の緊急修理への対応。							
N （ ）	評価指標の作成	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値		
			水道施設及び配水流量の毎日点検の実施及び確認による上水道の安定供給	水道施設及び流量の確認	日	水道施設及び流量の確認	365		
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値			
		上水道の安定供給	上水道の安定供給	%	正常稼働施設/水道施設×100	100			

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
実 施 状 況	事業費等 (a)	円	163,416,569	182,255,484	217,787,106	227,421,210	262,997,000
	財源内訳						
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	163,416,569	182,255,484	217,787,106	227,421,210	262,997,000
職 員 数	一般財源	円					
	正規職員	人	2.20	2.20	2.20	2.20	2.20
	嘱託職員 臨時職員	人					
合計	人	2.20	2.20	2.20	2.20	2.20	
対 象 （ 者 ） 数	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
単 位 コ ス ト	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
市 民 一 人 当 た り の コ ス ト	市民一人当たりのコスト	円	2,910.00	3,256.00	3,905.00	4,097.00	5,047.00
	活 動 指 標	水道施設及び流量の確認	目標	日	365	365	365
実績			日	365	365	365	365
達成率			%	100.00	100.00	100.00	100.00
-		目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
成 果 指 標	上水道の安定供給	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100	100
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00
	-	目標	-				
		実績	-				
		達成率	%	-	-	-	-
備考							

事務事業名	上水道施設の維持管理事業	事業期間	平成	~	年度	整理番号	05040102
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	作成担当者名	鷹野 鉄也	連絡先	665

期	目標	実績	課題
第1期	水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整を行う。	水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整の実施。	災害時のための訓練、大型浄水器の購入。
第2期	水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整を行う。	水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整の実施。	災害時のための訓練、大型浄水器の購入。
第3期	水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整を行う。	水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整の実施。	災害時のための訓練、大型浄水器の購入。
第4期	水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整を行う。	水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整の実施。	災害時のための訓練、大型浄水器の購入。

事中評価																							
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>拡充</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">休廃止</td> <td colspan="3">皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	今後の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	拡充	③	⑥	⑨	現状維持	④	⑧	⑩	縮小	①			休廃止		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性		
今後の方向性	成果の方向性		②	⑤	⑦																		
	拡充		③	⑥	⑨																		
	現状維持		④	⑧	⑩																		
	縮小	①																					
休廃止		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																					
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）																							

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																
課題	無し															記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要 前年度総合評価判定 前年度評価シート整理番号
課題																

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	総合評価	上水道事業を運営するためには、欠かせない事業である。					上水道事業を運営するためには、欠かせない事業である。			
改革・改善策	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	改革・改善の方向性	成果の方向性	②	⑤	⑦	成果の方向性	③	⑥	⑨	
改革・改善策	拡充	③	⑧	⑩	現状維持	④	①			
	現状維持	①	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				縮小	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性		
改革・改善策	上水道を安全安心に供給するために、水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整を行う事業であり、確実に行う必要がある。					上水道を安全安心に供給するために、水道施設に係わる維持管理、配水池水源の点検、環境整備、水道施設緊急修理、修理用資材管理、配水調整を行う事業であり、確実に行う必要がある。				

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳沢 昭弘
---------	------------	---------	------	-------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

水道事業会計【茅野市】

事務事業名	老朽管更新事業	事業期間	平成 14 ~ 年度	整理番号	05040301
担当部署	都市建設部	水道課	上水道整備係	作成担当者名	篠原 弘明
				連絡先	667

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり		
			施策 04 第4節 上・下水道の整備充実			
			細施策 01 上水道の安定供給			
			事務事業 03 老朽管の改良・更新事業			
	予算事業名			会計コード 021 款 01 項 01 目 02 事業 43		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	水道管の機能とは、水量、水圧を確保しながら住民に水を輸送することである。管路が老朽化すると出水不良、漏水事故等により住民に影響を及ぼすことになるため、管路更新が必要になる。大口径配水管の主要幹線はほとんど更新が終わっているが、小口径の老朽化した配水管が残っている。特に、残存する石綿セメント管及び硬質塩化ビニール管を耐震管へ更新することが求められている。 また、地震対策として中央病院や基本避難所等の重要施設への基幹管路の耐震化を図る。				
	現状と背景 （どうして）	老朽管としては、石綿セメント管、硬質塩化ビニール管、鉄管があるが、特に石綿セメント管は漏水事故が多く耐震性の観点からも不適切な管材であることから、全量更新してライフラインの機能強化を図る必要がある。				
	目的	対象	受益者 （誰のために）	給水区域内住民		
			対象 （直接働きかける）	同上		
		意図 （どんな状態にしたいか）	自然災害による影響を最小限にすることと、漏水のない水道管を整備することにより、安定・安心な給水と水資源の有効利用を図る。			
	手段・方法 （どうやって）	主要管路部と国道及び河川横断部の老朽管を更新し同時に耐震化を図ります。 北大塩中区配水池から中央病院まで専用管を整備します。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		老朽管を更新する。	年間更新延長	m	年間更新延長	4,000
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		全ての老朽管を更新する。	老朽管更新率	m	(老朽管更新済延長/老朽管計画延長) × 100	100
	漏水修繕工事の少ない管路により、ライフラインとしての安定供給をおこなう。	非漏水等発生率	%	(1-漏水事故等発生日数/365) × 100	95	

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算又は決算額）	平成30年度事業計画（予算）			
事業費等 (a)	円	433,083,398	367,269,549	399,518,377	382,874,391	700,531,000			
財源内訳									
国庫支出金	円								
県支出金	円								
地方債	円								
その他特定財源	円	433,083,398	367,269,549	399,518,377	382,874,391	700,531,000			
一般財源	円								
職員数	人								
正規職員	人	2.30	1.60	1.60	1.60	1.60			
嘱託職員	人								
臨時職員	人								
合計	人	2.30	1.60	1.60	1.60	1.60			
対象（者）数									
延利用（者）数 (b)									
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-			
受益者負担額	円								
市民一人当たりのコスト	円	7,713.00	6,561.00	7,163.00	6,897.00	12,864.00			
D （ ）	活動指標	年間更新延長	目標	m	4,000	4,000	4,000	3,800	4,500
			実績	m	6,036	3,493	4,255	3,896	4,500
		達成率	%	150.90	87.33	106.38	102.53	100.00	
	-		目標	-					
			実績	-					
		達成率	%	-	-	-	-	-	-
O （ ）	成果指標	老朽管更新率	目標	m	703,901	703,901	703,901	703,901	703,901
			実績	m	622,206	625,699	629,954	633,850	638,350
		達成率	%	88.39	88.89	89.49	90.05	90.69	
	非漏水等発生率		目標	%	95	95	95	95	95
			実績	%	94	94	94	94	94
		達成率	%	98.95	98.95	98.95	98.95	98.95	
備考									

事務事業名	老朽管更新事業	事業期間	平成 14 ~	年度	整理番号	05040301
担当部署	都市建設部	水道課	上水道整備係	作成担当者名	篠原 弘明	連絡先
						667

期	目 標	実 績	課 題
第1期	事業費の25%を目標に工事発注する。 発注延長1,200m/計画延長3,800m	約42%(L≒1,610m)の布設替工事を発注した。	早期発注に努める。
第2期	布設替延長の約50%を目標に工事発注する。 発注延長1,900m/計画延長3,800m	約62%(L≒2,370m)の布設替工事を発注した。	施工時期、場所、施設の事情を考慮し適切に発注する。
第3期	布設替延長の約80%を目標に工事発注する。 発注延長3,000m/計画延長3,800m	目標延長(L=3,800m)を超える延長L≒3,840m)の布設替工事を発注した。	施工時期、場所、施設の事情を考慮し適切に発注する。
第4期	2月中旬までにはすべての工事を発注する。	2月上旬までにすべての工事発注を完了した。 布設替延長(L=3,900m)103%達成した。	計画的に事業を実施する。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 道路改良や他事業と同時施工を実施することで、建設コストの縮減を図る。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	老朽管の延長が長いこと、全ての老朽管を整備するには年数が必要であり、今後はより法定耐用年数を超える管路が増える状況にある。また、布設替えが必要な箇所ではあるが、権利関係、地理的条件等で施工が困難な箇所も多い。施設整備事業及び布設替事業を計画的かつ経済的に事業を進めるための検討を進める。															
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	05043101															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	事業は毎年実施しているため、本管からの漏水事故件数は減少しているが有収率が上がらない状況である。今後は、老朽管の更新が遅れている蓼科上水道と白樺湖上水道に事業費を拡充して計画的に整備を進める必要がある。	事業は毎年実施しているため、本管からの漏水事故件数は減少しているが有収率が上がらない状況である。今後は、老朽管の更新が遅れている蓼科上水道と白樺湖上水道に事業費を拡充して計画的に整備を進める必要がある。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充		②	⑤	⑦	拡 充			
方向性	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ	
方向性	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小				
方向性	休 廃 止	①				休 廃 止				
改革・改善策	老朽管の更新は既存石綿管と塩ビ管の布設替えを優先的に行い有収率の向上を図るとともに、水道管の老朽度や重要度を考慮し総合評価したうえで、老朽管更新に合わせて耐震化も実施していく。					老朽管の更新は既存石綿管と塩ビ管の布設替えを優先的に行い有収率の向上を図るとともに、水道管の老朽度や重要度を考慮し総合評価したうえで、老朽管更新に合わせて耐震化も実施していく。				

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

水道事業会計【茅野市】

事務事業名	紫外線処理施設整備事業	事業期間	平成 25 ~ 年度	整理番号	05040305
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	作成担当者名	小平 晃
				連絡先	665

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実							
				細施策	01	上水道の安定供給							
				事務事業	04	安全で良質な水の供給事業							
	予算事業名			会計コード	021	款	01	項	01	目	01	事業	43
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	現在、市内の水源47箇所の中で5箇所（高部第1、東岳、所窪、大沢、蓼科第4）が、クリプトスポリジウム等対策指針のレベル3となっていて毎月指標菌の検査を行っている。クリプトスポリジウムが検出された場合は、原水の取水停止が余儀なくされる。安心、安全でおいしい水を提供するため、指標菌が多く検出されている水源にクリプトスポリジウム等を不活性化させる紫外線処理設備を設置する。											
	現状と背景 （どうして）	レベル3の場合、クリプトスポリジウム等の予防対策として、ろ過設備か紫外線処理設備の整備が義務付けられているため、指標菌の検出度が高い水源の施設整備を行う。											
	目的	対象	受益者 （誰のために）	配水区域の給水を受けている市民									
			対象 （直接働きかける）	配水区域の給水を受けている市民									
			意図 （どんな状態にしたいか）	安心、安全な水道水を供給する									
	手段・方法 （どうやって）	湧水を水源とする配水池に紫外線処理施設を設置して不活性化を図る。											
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		紫外線処理設備を設置	施設整備率	%	年度設置数/目標設置数×100				100				
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
		クリプトスポリジウムに感染しない	感染防止率	%	感染者数/区域給水人口×100				100				

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	75,825,720	83,008,800			220,000,000
	国庫支出金	円	17,050,000	13,618,000			42,650,000
	県支出金	円					
	地方債	円		10,490,000			150,000,000
	その他特定財源	円	58,775,720	58,900,800			27,350,000
	一般財源	円					
職員数	正規職員	人	1.25	1.25		1.25	1.25
	嘱託職員 臨時職員	人					
	合計	人	1.25	1.25		1.25	1.25
活動指標	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
成果指標	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
	受益者負担額	円					
備 考	市民一人当たりのコスト	円	1,350.00	1,483.00	-	-	4,141.00
	施設整備率	目標 実績 達成率	% 20 100.00	% 20 100.00	% - -	% 20 100.00	% 20 100.00
備 考	-	目標 実績 達成率	% - -	% - -	% - -	% - -	% - -
	感染防止率	目標 実績 達成率	% 100 100.00	% 100 100.00	% - -	% 100 100.00	% 100 100.00
	-	目標 実績 達成率	% - -	% - -	% - -	% - -	% - -
	平成29年度は未実施						

事務事業名	紫外線処理施設整備事業	事業期間	平成 25 ~	年度	整理番号	05040305	
担当部署	都市建設部	水道課	給水維持係	作成担当者名	小平 晃	連絡先	665

期	目 標	実 績	課 題
第1期	紫外線設備の建設計画の検討	水道課内会議の開催(施工時期の検討)	配水池との同時施工を行ないたいため、配置・規模・配管等の検討が必要
第2期	北大塩中区配水池建替え計画との整合	配置計画及び場内配管の検討	詳細設計、規模を早期に決定させる必要あり
第3期	国庫補助金の事務手続きの確認	国庫補助金の事務手続き及び施工時期の確認	場内配置、規模を早期に決定させる必要あるため、先進地視察を行う
第4期	諏訪市の設備の視察	諏訪市紫外線施設の視察	配水池との同時施工のための調整

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	過去の検査にて指標菌が検出された水源について、紫外線処理設備を導入する優先順位を検討する必要がある。															
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	05040305															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
		安心安全な水道水を供給するためには、必要な事業である。					安心安全な水道水を供給するためには、必要な事業である。			
	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後							
	今後の方向性	成 果 の 方 向 性 休 廃 止	①	②	③	④	成 果 の 方 向 性 休 廃 止		⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性							
改革・改善策	1個所当たりの設備費が高価なため、計画的に整備していく必要がある。					1個所当たりの設備費が高価なため、計画的に整備していく必要がある。							

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------



平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

水道事業会計【茅野市】

事務事業名	基幹配水池更新事業	事業期間	平成 27 ~ 32 年度	整理番号	05040303
担当部署	都市建設部	水道課	水道整備係	作成担当者名	篠原弘明
				連絡先	667

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実
				細施策	01	上水道の安定供給
				事務事業	01	供給安定性の向上事業
	予算事業名			会計コード	021	款 01 項 01 目 02 事業 43
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	配水池は、取水施設から取り入れられた水を水道利用者へ安定的に水道水を給水するための施設である。茅野市上水道には49箇所の配水池があり、その中で北大塩水系には、大清水を水源とする北大塩中区配水池と埴原田配水池があり、両配水池は、築造されて既に50年以上が経過している。そのため、両配水池を更新して水道水の安定供給を図るとともに、紫外線殺菌装置を設置して水質の保全を図るものである。				
	現状と背景 （どうして）	56基の配水池・減圧槽・送水場が現在稼働しており、多くの配水池は老朽化が進んでいることから、計画的に更新を図る必要がある。緊急時対応の強化、配水区域の安定供給の観点から、市街地を配水区域に持つ、北大塩中区配水池及び埴原田配水池について更新を行う。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	給水区域内住民			
		対象 （直接働きかける）	同上			
		意図 （どんな状態にしたいか）	安定・安心な給水と水資源の有効利用を図る。			
	手段・方法 （どうやって）	北大塩中区配水池と埴原田配水池を更新する。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		配水池を更新する。	配水池更新数	箇所	配水池更新数	2
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		老朽化した配水池を更新する。	配水池更新率	%	(配水池更新/2) × 100	100

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円		30,965,980	56,350,956	347,235,200	413,769,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円		30,965,980	56,350,956	347,235,200	413,769,000	
	一般財源	円						
	職員数	人		0.50	0.50	1.00		
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人		0.50	0.50	1.00			
	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	-	553.00	1,010.00	6,255.00	7,469.00	
D O （ ）	活動指標	配水池更新数	目標	箇所	2	2	2	
			実績	0	0	0	1	
		達成率	%	-	0.00	0.00	50.00	
	-	-	目標	-	-	-	-	
			実績	-	-	-	-	
		達成率	%	-	-	-	-	
	成果指標	配水池更新率	目標	%	100	100	100	100
			実績	0	0	0	50	
		達成率	%	-	0.00	0.00	50.00	
	-	-	目標	-	-	-	-	
実績			-	-	-	-		
	達成率	%	-	-	-	-		
備考								

事務事業名	基幹配水池更新事業	事業期間	平成 27 ~ 32 年度	整理番号	05040303
担当部署	都市建設部	水道課	上水道整備係	作成担当者名	篠原 弘明
				連絡先	667

期	目 標	実 績	課 題
四 半 期 と の 管 理	第1期 北大塩中区配水池の関係者、関係機関との調整を行い工事入札の準備を進める。 埴原田配水池詳細設計の発注。	中区配水池工事発注形態を関係機関と協議の上決定した。 詳細設計委託業務の発注及び契約を締結。	
	第2期 北大塩中区配水池の工事入札を実施し契約を締結する。 埴原田区と協議を進める。	北大塩工事の入札を実施、計画4工事を契約締結をした。 埴原田区と配水池オーバー等協議した。	
	第3期 北大塩中区配水池の関係者、関係機関との調整を行い工事着手する。	北大塩区との協議を重ね工事着手した。	
	第4期 北大塩中区配水池工事の工程調整やH30年度周辺工事との調整を行う。 埴原田配水池計画の確定。	配水池施工業者間での来年度工事の工程調整を協議した。北大塩区及び米沢区長会とH30年工事について協議。 詳細設計を行い事業実施の準備ができた。	事業施工時期の確定をする。

事 中 評 価

の 管 理	当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦
	新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 北大塩中区配水池への流入流出管路整備を重点的工事を進め、配水池早期稼働を目指す。		現 状 維 持	③	⑥	⑨
			縮 小	④	⑧	⑩
			休 廃 止	①		
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			

評価年度

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	北大塩中区配水池は確実に工事完了をすると共に、周辺工事の通行止め等の地元対策の最終調整が必要である。 埴原田配水池は詳細設計が完了するため、工事着手までには期間が空くが、地元の協力を得られるよう事前協議を進める。															
記号の定義	A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要															
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	05043101															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	北大塩中区配水池と埴原田配水池は、茅野市街地への配水や重要給水施設へ給水するための基幹配水池であるため計画的に事業を進めていく。						北大塩中区配水池と埴原田配水池は、茅野市街地への配水や重要給水施設へ給水するための基幹配水池であるため計画的に事業を進めていく。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後									
	今 後 の 方 向 性	成 果 的 拡 充	②	⑤	⑦		成 果 的 拡 充								
現 状 維 持		③	⑥	⑨		現 状 維 持		⑥							
縮 小		④	⑧	⑩		縮 小									
休 廃 止		①				休 廃 止									
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性								皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改革・改善策	両配水池は市街地に供給する拠点配水池であるため計画的な更新が必要である。両配水池からの配水・送水管も同時期に耐震化することで、都市基盤の強化を図り災害時も安定した水を供給することができる。					両配水池は市街地に供給する拠点配水池であるため計画的な更新が必要である。両配水池からの配水・送水管も同時期に耐震化することで、都市基盤の強化を図り災害時も安定した水を供給することができる。									

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	下水道長寿命化対策事業	事業期間	平成 23 ~ 30 年度	整理番号	05040504
担当部署	都市建設部 水道課	作成担当者名	宮下 晶弘	連絡先	655

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり 施策 04 第4節 上・下水道の整備充実 細施策 02 公共下水道整備の充実 事務事業 01 管きよの延命化事業		
	予算事業名		会計コード	022 款 01 項 01 目 02 事業		
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	茅野市の下水道施設も昭和49年に整備を開始し42年が経過し、施設の老朽化が発生し、道路陥没等の事故が発生した箇所もあります。このような現状から国は、事故の未然防止や限られた財源の中でライフサイクルコストの最小化を図るため、「下水道長寿命化支援制度」を新規事業として創設しました。当該事業は、下水道施設の健全度に関する点検・調査結果に基づき「下水道長寿命化計画」を策定し、管路施設の延命化や耐震化及び事故の未然防止を図るために、管渠更生工事とマンホール鉄蓋交換工事を計画的に実施するものです。				
	現状と背景 （どうして）	当市の下水道は、平成27年度末で供用開始面積2,407.3haに達し、接続率も98.5%になり、面的な整備は終盤を迎えています。現状は、整備から30年を超えた管路施設が老朽化しつつあり、施設の延命化を図る必要があります。国の支援制度を活用し、下水道施設の点検・調査を行い、下水道長寿命化計画を策定し、管路施設の計画的な改築を進めるものです。				
目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	受益者	下水道計画区域内の市民			
	対象 （ 直 接 働 き か け る ）	対象	老朽化した下水道管の延命を図る。			
手段・方法 （ ど う や っ て ）	意図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	下水道施設の延命化を図るため、老朽化した下水道施設の調査・点検結果を基に、長寿命化計画を策定し、計画的な改築・更新を行い、下水道施設の健全化を図る。また、事故の未然防止及び及び限られた下水道事業財源の中でのライフサイクルコストの最小化を図る。				
	手段・方法 （ ど う や っ て ）	管渠調査、長寿命化計画策定、管渠更生工事、管渠修繕工事、マンホール蓋交換工事を実施。				
N （ ）	活動指標 の 作 成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		スムーズな事業の実施	年間事業実施率	%	年間実施事業費/年度予算	100
	成果 指 標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		スムーズな事業の遂行	全体事業遂行率	%	累積事業費/全体事業費	100

実 施 状 況 （ ）	項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円	80,490,651	42,876,415	46,560,421
財 源 内 訳	国庫支出金	円	53,200,000	21,150,000	22,400,000	62,200,000	3,000,000
	地方債	円	19,769,900	19,500,000	22,100,000	30,400,000	2,700,000
	その他特定財源	円	7,520,751	2,226,415	2,060,421	34,186,017	300,000
	一般財源	円					
職 員 数	正規職員	人	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
合	人	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	
対 象 （ 者 ） 数	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-
受 益 者 負 担 額	市民一人当たりのコスト	円	1,434.00	766.00	835.00	2,284.00	203.00
	年間事業実施率	目標 %	100	100	100	100	100
活 動 指 標	-	実績 %	100	100	100	100	100
		達成率 %	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	-	目標	-	-	-	-	-
		実績	-	-	-	-	-
	-	達成率 %	-	-	-	-	-
		目標	-	-	-	-	-
成 果 指 標	全体事業遂行率	目標 %	100	100	100	100	100
		実績 %	27	41	57	90	95
-	達成率 %	27.00	41.00	57.00	90.00	95.00	
		目標	-	-	-	-	-
-	実績	-	-	-	-	-	
		達成率 %	-	-	-	-	-
備 考							

事務事業名	下水道長寿命化対策事業	事業期間	平成 23 ~ 30 年度	整理番号	05040504
担当部署	都市建設部	水道課	下水道整備係	作成担当者名	宮下 晶 弘
				連絡先	655

期	実績	課題
第1期	・補助金の交付申請(4月) ・管渠の更生 L=568m発注(6月)	補助金交付申請 4月
第2期	・管渠の更生 L=254m発注 ・テレビカメラ調査委託業務発注	テレビカメラ調査委託業務発注 8月 管渠更生工事発注 9月
第3期	・管渠の更生 L=308m発注 ・マンホール鉄蓋交換工事発注	・マンホール鉄蓋交換工事完了 12月
第4期	・管渠の更生 L=308m発注 ・マンホール鉄蓋交換工事発注	・管渠の更生 L=308m完了3月 ・マンホール鉄蓋交換工事完了3月

事中評価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成果 拡 充 後の 現 状 維 持 の 方 向 性 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ①
1-2、2、3処理分区の長寿命化対策工事で管渠更生は2カ年計画の最終年、マンホール鉄蓋交換は5カ年計画の3年目となり計画的に事業をすすめる。	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

視点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																
課題	<p>平成25年2月に国より、茅野市公共下水道長寿命化計画(茅野1-1処理分区)が採択されました。引き続き、この計画に沿って、老朽化した管渠の延命化並びに耐震化を図ります。茅野1-1の処理分区は5カ年計画で行います。</p> <p>また、平成29年4月には国より、茅野市公共下水道長寿命化計画(茅野1-2.2.3処理分区)が採択されました。1-1処理分区に続き、施設年度も古く陶管やヒューム管の箇所が多い当処理分区の長寿命化計画を策定し採択されました。この計画に沿って、老朽化した管渠の延命化並びに耐震化を図ります。茅野1-2.2.3処理分区は5カ年計画で行います。</p>															
CH E C K	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					前年度総合評価判定					
総合評価	24年度は、第1ステップとして茅野1-1処理分区の下水道長寿命化計画の採択を受けました。25年度より5カ年計画で老朽化した管渠の改築工事を計画に沿って行っていきます。29年度の予算38,000千円で、管渠更生工事とマンホール蓋交換工事を計画どおり実施します。					24年度は、第1ステップとして茅野1-1処理分区の下水道長寿命化計画の採択を受けました。25年度より5カ年計画で老朽化した管渠の改築工事を計画に沿って行っていきます。29年度の予算38,000千円で、管渠更生工事とマンホール蓋交換工事を計画どおり実施します。					前年度評価シート整理番号 05040504					
	平成28年度からは、第2ステップとして茅野1-2.2.3処理分区の下水道長寿命化計画の採択を受け、5カ年計画で老朽化した管渠の改築工事を計画に沿って行っていきます。29年度の予算21,600千円で、管渠更生工事とマンホール蓋交換工事を計画どおり実施します。					平成28年度からは、第2ステップとして茅野1-2.2.3処理分区の下水道長寿命化計画の採択を受け、5カ年計画で老朽化した管渠の改築工事を計画に沿って行っていきます。29年度の予算21,600千円で、管渠更生工事とマンホール蓋交換工事を計画どおり実施します。										
	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性										

改革・改善の方向性	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果 拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	判定	成果 拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	判定
方向性					② ⑤ ⑦					③ ⑥ ⑨
性					④ ⑧ ⑩					①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

改革・改善策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果 拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	判定	成果 拡 充	現 状 維 持	縮 小	休 廃 止	判定
改革・改善策	茅野1-1処理分区については、H25年度から管渠は5カ年計画、マンホールは3カ年計画で計画に沿って順次工事を進めます。					茅野1-1処理分区については、H25年度から管渠は5カ年計画、マンホールは3カ年計画で計画に沿って順次工事を進めます。				
	茅野1-2.2.3処理分区については、H28年度から管渠は2カ年計画、マンホールは5カ年計画で計画に沿って順次工事を進めます。					茅野1-2.2.3処理分区については、H28年度から管渠は2カ年計画、マンホールは5カ年計画で計画に沿って順次工事を進めます。				
	この事業は、下水道施設の延命化と地震対策の両方に効果があります。					この事業は、下水道施設の延命化と地震対策の両方に効果があります。				

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	下水道普及促進事業	事業期間	平成 1 ~ 年度	整理番号	05040601
担当部署	都市建設部	水道課	下水道管理係	作成担当者名	藤 森 龍
				連絡先	654

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実
				細施策	02	公共下水道整備の充実
				事務事業	02	接続率向上事業
	予算事業名			会計コード	022	款 01 項 01 目 03 事業 29
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	下水道区域内の建物において、低地等の条件により汚水を自然流下によって公共下水道に排除することが困難な家屋で、私設汚水ポンプを設置して下水道に接続する者、また私道等に共同の排水設備を敷設する者に、その設置費の一部を補助する制度です。				
	現状と背景 （どうして）	汚水ポンプを利用して下水道に接続する家屋は、自然流下により下水道に接続できる家屋に比較して排水設備の工事費負担が大きくなり、公共下水道への接続が進まなかった。また、私道等に下水道施設を設けるには個人負担となり多額の費用がかかるため、公共下水道への接続に当たり障害となっている。				
	目的	対象	受益者 （誰のために）	低地等の条件により汚水を公共下水道に自然流下によって排除することが困難な家屋を、汚水ポンプで下水道に接続する者。私道等に共同排水設備を設け公共下水道に接続する者。		
		対象 （直接働きかける）	低地等の条件により汚水を公共下水道に自然流下によって排除することが困難な家屋を、汚水ポンプで下水道に接続する者。私道等に共同排水設備を設け公共下水道に接続する者。			
		意図 （どんな状態にしたいか）	公共下水道への接続を促進し、下水道接続率を向上させる。			
	手段・方法 （どうやって）	受益者				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		補助制度利用件数	利用件数	件	ポンプ補助5件・共同排水設備2件	7
		融資あっ旋件数	融資あっ旋件数	件		3
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		下水道接続率	下水道接続率	%	水洗化人口/下水道整備区域内人口	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	1,470,285	669,206	1,334,566	2,486,048	7,626,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円	1,470,285	669,206	1,334,566	2,486,048	7,626,000	
一般財源	円						
職員数	人						
正規職員	人	0.15	0.80	0.80	0.80	0.80	
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人	0.15	0.80	0.80	0.80	0.80	
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	26.00	12.00	24.00	45.00	246.00	
D O （ ）	活動指標	利用件数	目標	件	7	7	7
			実績	件	2	1	1
		達成率	%	28.57	14.29	14.29	57.14
	融資あっ旋件数	目標	件	3	3	3	3
		実績	件	3	2	1	2
		達成率	%	100.00	66.67	33.33	66.67
成果指標	下水道接続率	目標	%	100	100	100	100
		実績	%	99	99	99	99
	達成率	%	99.00	99.00	99.00	99.00	99.00
備考	目標	-					
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	

事務事業名	下水道普及促進事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040601
担当部署	都市建設部	水道課	下水道管理係	作成担当者名	藤 森 龍	連絡先	654

期	目 標	実 績	課 題
第1期	公共下水道への未接続世帯へ接続促進補助制度利用の促進	・私設汚水ポンプ設備設置費補助1件 ・未接続世帯への訪問2件	未接続世帯が、5件接続されました。引き続き、接続の促進を行う。
第2期	公共下水道への未接続世帯へ接続促進補助制度利用の促進	・私設汚水ポンプ設備設置費補助1件 ・未接続世帯への訪問準備(地図落とし等)	合併浄化槽を含め543件の未接続世帯へ公共下水道への接続と不明箇所を解消を行う。
第3期	公共下水道への未接続世帯へ接続促進補助制度利用の促進	・不明箇所48件、未接続者訪問65件(北山・ちの地区)の実施	北山・ちの地区以外の未接続世帯への訪問を継続し、接続をお願いしていき、補助対象になりそうな案件について補助利用の促進を行う
第4期	公共下水道への未接続世帯へ接続促進補助制度利用の促進	・私設汚水ポンプ設備設置費補助2件 ・融資あっ旋2件	建替えや、売買以外での公共下水接続は、資金的問題や土地条件の問題で困難となっている。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 未接続世帯へ訪問を実施し、下水道接続と併せポンプ補助や融資あっせん制度の説明をし利用につなげていく。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 建替えや売買以外での下水道接続は資金的問題や土地条件の問題で困難となっているため、ポンプ補助や融資あっせん制度を継続し、公共下水道接続への支援が必要	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定						
チェック					4	3				4					4	A					
課題	<p>公共下水道への接続には、工事をするにあたり自己負担費用がかかり、立地条件によってはその額が大きくなるため、接続にあたってネックとなるケースがあります。低地における下水道への接続、下水道本管の整備されている市道から離れている敷地等が、このケースにあたります。低地の場合の汚水ポンプによる下水道への接続や、複数戸により共同で排水設備を整備して下水道へ接続する方法により、補助制度を利用することで自己費用負担の軽減を図ることができます。補助制度の利用件数はわずかで年度によりばらつきがありますが、当事業は下水道の接続率を確実に向上させるものです。今後更なる普及活動により補助制度を広く知っていただく必要があります。</p>															記号の定義 A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要					
前年度総合評価判定																					
前年度評価シート整理番号																					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	低地等の条件が悪い場合、下水道接続にかかる費用は大きなものとなり、未接続の要因となっています。補助制度の利用件数はわずかで年度によってばらつきがありますが、下水道普及率の向上とともに下水道接続について市民の感心は高まっているものの、まだまだ未接続家屋が多く残っていることから、今後も計画的に事業を進めることが適当と評価します。当事業は下水道接続率を向上させる一要因であり、結果として住環境と自然環境が向上し快適な都市環境の形成につながります。	前年度改革・改善策の実施状況					低地等の条件が悪い場合、下水道接続にかかる費用は大きなものとなり、未接続の要因となっています。補助制度の利用件数はわずかで年度によってばらつきがありますが、下水道普及率の向上とともに下水道接続について市民の感心は高まっているものの、まだまだ未接続家屋が多く残っていることから、今後も計画的に事業を進めることが適当と評価します。当事業は下水道接続率を向上させる一要因であり、結果として住環境と自然環境が向上し快適な都市環境の形成につながります。	前年度細施策評価における今後の方向性			

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	実施している補助制度は、下水道接続率を向上させる要因であり、快適な都市環境の形成へとつながります。公共下水道への接続には自己負担がかかりますが、建物の増築、改築や改修工事にあわせて行うケースが多いので、この機会に補助制度をPRし確実に下水道に接続していただくよう進めます。	実施している補助制度は、下水道接続率を向上させる要因であり、快適な都市環境の形成へとつながります。公共下水道への接続には自己負担がかかりますが、建物の増築、改築や改修工事にあわせて行うケースが多いので、この機会に補助制度をPRし確実に下水道に接続していただくよう進めます。								

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	茅科地区の下水道整備	事業期間	平成 29 ~ 年度	整理番号	05040109
担当部署	都市建設部	水道課	下水道整備係	作成担当者名	宮下 晶 弘
				連絡先	655

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実
				細施策	02	公共下水道整備の充実
				事務事業	03	茅科地区下水道整備事業
	予算事業名			会計コード	022	款 項 目 事業
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	茅科地区の汚水は、開発事業者が管理する汚水処理と個人が管理する合併浄化槽等により処理がされています。開発事業者が管理する汚水処理施設は、建設年が古く厳しくなっているため、水質基準に対応することが難しく、将来的に開発事業者が倒産等で茅科地区の開発地の管理を放棄した場合、行政が何らかの対応をしなければなりません。そのため、開発事業者が存続しているうちに汚水処理については、流域下水道へ接続することで将来の危機回避を図ることを目的としています。				
	現状と背景 （どうして）	水質基準が厳しくなり開発事業者の対応如何では、下流域の水質汚染が懸念されること、また、開発事業者が経営困難になった時には、行政が何らかの対応をとらなくてはならないことから、将来の危機回避として下水道を整備する必要があると考えます。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象	受益者 （誰のために）	茅科地区に建物を所有する者		
		対象 （直接働きかける）	汚水処理			
		意図	茅科地区の汚水を豊田処理場で処理することで、茅科地区の汚水処理が将来においても開発事業者の経営状況に左右されず安定的に処理ができるようにします。			
	手段・方法 （どうやって）	県が布設した流域下水道管きよ（終点北山湯川地区）から茅科地区の北八ヶ岳リゾートの管理する汚水処理施設までの幹線管きよを布設します。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		年度工事施工延長	年度事業進捗率	%	年度施工延長/年度計画延長	100
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		累積工事施工延長	全体事業進捗率	%	累計施工延長/総計画延長	100

実 施 状 況 （ D O ）	項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）
			事業費等 (a)	円			
財 源 内 訳	国庫支出金	円				18,000,000	135,000,000
	県支出金	円					
	地方債	円				17,900,000	121,500,000
	その他特定財源	円					
職 員 数	一般財源	円				844,863	13,500,000
	正規職員	人				0.40	1.00
	嘱託職員	人					
	臨時職員	人					
	合計	人				0.40	1.00
	対象（者）数						
	延利用（者）数 (b)						
	単位コスト (a)/(b)	円	-		-	-	-
	受益者負担額	円					
	市民一人当たりのコスト	円	-		-	662.00	5,010.00
活 動 指 標	年度事業進捗率	目標	%			100	100
		実績	%			5	5
	達成率	%	-			5.00	5.00
	-	目標	%				
実績		%					
達成率	%	-					
成 果 指 標	全体事業進捗率	目標	%			100	100
		実績	%			5	5
	達成率	%	-			5.00	5.00
	-	目標	%				
実績		%					
達成率	%	-					
備考							

事務事業名	蓼科地区の下水道整備	事業期間	平成 29 ~	年度	整理番号	05040109	
担当部署	都市建設部	水道課	下水道整備係	作成担当者名	宮下 晶弘	連絡先	655

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・社会資本整備総合交付金の申請準備 ・蓼科污水幹線実施設計委託業務発注準備 (湯川～蓼科湖 L=5.2km)	・交付申請 4月 ・蓼科污水幹線実施設計書作成	
第2期	・蓼科污水幹線実施設計委託業務発注 (湯川～蓼科湖 L=5.2km)	・蓼科污水幹線実施設計書発注 8月	
第3期	・蓼科污水幹線事業関係者との協議	・県道占用申請事前協議 10月～12月 ・河川(水管橋)占用事前協議 12月	
第4期	・蓼科污水幹線実施設計委託業務完了 (湯川～蓼科湖 L=5.2km) ・県道占用申請提出	・蓼科污水幹線実施設計委託業務完了 3月 ・県道占用申請提出 3月	

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)	① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 課 題	視 点					妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定						
チェック					4					4					4	A					
課題	蓼科処理分区の污水を豊田終末処理場に受け入れるため、蓼科湖から茅野市湯川地先の流域幹線接続点までの約5.2kmを施工区間とし、平成31年度末までに工事を完了し、平成32年度の供用開始を目指します。下水道管理設ルは県道富士見・原・茅野線及び県道茅野停車場八子ヶ峰公園線になります。本ルートは、観光道路になるため、工事施工期間の制限等が予測されるため、関係機関との事前調整を行い、目標内の完成を目指す。																				
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要																				
前年度総合評価判定																					
前年度評価シート整理番号																					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	平成29年度から社会資本整備総合交付金事業により平成33年度の5ヶ年計画により蓼科污水幹線の整備を行い、環境整備を行う。今年度は、実施設計を行い、平成30、31年度の2ヶ年で蓼科湖から湯川にある流域流域幹線接続点までの延長約5.2kmの整備を行います。	平成29年度から社会資本整備総合交付金事業により平成33年度の5ヶ年計画により蓼科污水幹線の整備を行い、環境整備を行う。今年度は、実施設計を行い、平成30、31年度の2ヶ年で蓼科湖から湯川にある流域流域幹線接続点までの延長約5.2kmの整備を行います。								
前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性									

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止								
皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性									
改革・改善策	蓼科污水幹線の整備を進めることにより、蓼科湖周辺の下水道未接続の解消を図り、河川、諏訪湖の浄化につながります。									

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------



平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	下水道事業計画管理事務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040101
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	小松輝彦	連絡先	652

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実							
				細施策	02	公共下水道整備の充実							
				事務事業	04	下水道整備事業							
	予算事業名			会計コード	022	款	01	項	02	目	01	事業	04
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	下水道事業の全体計画、事業実施計画、事業認可等の取得など、下水道事業を実施するために必要となる計画管理業務です。事業認可を取得するためには、必要な図面（今後数年間の事業計画を定める計画書及び計画図）を作成し、県と協議を行った上で、事業計画の協議をする必要があります。それらの計画を管理する業務です。											
	現状と背景 （どうして）	諏訪湖の水質保全や快適な生活環境に欠かすことのできない下水道は、事業を行う前に県等の計画との整合性を図った全体計画・事業計画を策定した上で、どこを整備するかといった事業の認可を受けるなど、計画の管理が必要です。											
	目的 的 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	対象 （ 誰 の た め に ）	下水道区域計画内の市民										
		対象 （ 直 接 働 き か け る ）	下水道事業										
	意図 （ ど ん な 状 態 に し た い か ）	事業計画を策定し、下水道の利用が可能になる区域、人口の計画をたてる。											
	手段・方法 （ ど う や っ て ）	区域別戸数調査、地形調査、管路計画、流量計算など計画策定のための調査、設計。											
N （ ）	活動 指 標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		下水道計画区域の調査	計画区域調査	h a	市内全域の下水道計画区域の見直し			3,246					
		下水道計画区域の調査（H28ND）	計画区域調査（H28ND）	h a	下水道事業計画面積（平成29年度変更分）			40					
	成 果 指 標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		下水道計画区域（案）の策定	計画面積割合	%	下水道事業計画面積／下水道全体計画計画面積			100					
		下水道計画人口	計画人口割合	%	下水道事業計画人口／行政区内計画人口			97					

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）		
事業費等 (a)	円		5,259,600	14,018,400		17,200,000		
財源内訳								
国庫支出金	円							
県支出金	円							
地方債	円							
その他特定財源	円		5,259,600	14,018,400		17,200,000		
一般財源	円							
職員数	人							
正規職員	人	0.10	0.30	0.10	0.10	0.10		
嘱託職員	人							
臨時職員	人							
合計	人	0.10	0.30	0.10	0.10	0.10		
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-		
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	-	94.00	251.00	-	324.00		
D （ ）	活動 指 標	計画区域調査	目標	h a	3,246	3,246	3,246	3,246
			実績	h a	3,246	3,246	3,246	3,246
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	-	100.00
	計画区域調査（H28ND）	目標	h a			35	40	40
		実績	h a			35	40	40
		達成率	%	-	-	100.00	-	100.00
計画区域調査（H27ND）	目標	h a		165				
	実績	h a		165				
	達成率	%	-	100.00	-	-	-	
O （ ）	成 果 指 標	計画面積割合	目標	%				
			実績	%				
	達成率	%	-	-	-	-	-	
	計画人口割合	目標	%					
実績		%						
達成率	%	-	-	-	-	-		
備考	次回の計画変更予定は平成26～27年度。計画区域調査（H19ND）には蓼科地区、白樺湖地区を含みます。 市民プランの細施策において継続的な事業です。 平成29年度は事業計画変更図書の提出。平成30年度に汚水・雨水事業計画の変更を行う。							

事務事業名	下水道事業計画管理事務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040101
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	小松輝彦	連絡先	652

期	目標	実績	課題
第1期	下水道事業計画変更図書を県へ提出する。	下水道事業計画変更図書を県へ提出した。	特になし
第2期	特になし	下水道の事業計画が了承された。	特になし
第3期	特になし	特になし	特になし
第4期	特になし	特になし	特になし

事中評価																													
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果</td> <td>拡充</td> <td></td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>の</td> <td>現状維持</td> <td></td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>方向</td> <td>縮小</td> <td></td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方向</td> <td>性</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今	成果	拡充		②	⑤	⑦	後	の	現状維持		③	⑥	⑨	の	方向	縮小		④	⑧	⑩	方向	性	休廃止	①			
今	成果	拡充		②	⑤	⑦																							
後	の	現状維持		③	⑥	⑨																							
の	方向	縮小		④	⑧	⑩																							
方向	性	休廃止	①																										
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	<p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>																												

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック					4					4					4	
課題	<p>次回の計画変更に向けて、既認可区域の周縁部の扱い等、流域下水道管理者と調整を進める必要があります。平成31年度に雨水事業を予定する関係で、平成30年度に事業計画の変更が必要となります。</p>															<p>記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p>
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号	05040101															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	今回の計画変更に向けての調整を進める必要があります。大きな変更は行わないことが妥当ですが、下水道中期ビジョンの将来像の実現に向けて、必要な見直しは行うことが妥当です。また専門性が高い事業のため、効率的に外部委託を導入しています。						<p>次回の計画変更に向けての調整を進める必要があります。大きな変更は行わないことが妥当ですが、下水道中期ビジョンの将来像の実現に向けて、必要な見直しは行うことが妥当です。また専門性が高い事業のため、効率的に外部委託を導入しています。</p>			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前					細施策評価後																																																				
	<p>快適で衛生的な生活環境を保持するとともに公共水域の保全のため下水道の整備は重要であり、そのためには全体計画、認可計画、実施計画の管理は必要不可欠です。事業の執行に支障がないように管理を行います。なお、平成30年度には計画の見直しを行う必要があります。</p>						<p>快適で衛生的な生活環境を保持するとともに公共水域の保全のため下水道の整備は重要であり、そのためには全体計画、認可計画、実施計画の管理は必要不可欠です。事業の執行に支障がないように管理を行います。なお、平成30年度には計画の見直しを行う必要があります。</p>																																																			
<table border="1"> <tr> <td>成果</td> <td>拡充</td> <td></td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>現状維持</td> <td></td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>方向</td> <td>縮小</td> <td></td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>性</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>	成果	拡充		②	⑤	⑦	の	現状維持		③	⑥	⑨	方向	縮小		④	⑧	⑩	性	休廃止	①									<table border="1"> <tr> <td>成果</td> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>方向</td> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>性</td> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>					成果	拡充					の	現状維持				レ	方向	縮小					性	休廃止				
成果	拡充		②	⑤	⑦																																																					
の	現状維持		③	⑥	⑨																																																					
方向	縮小		④	⑧	⑩																																																					
性	休廃止	①																																																								
成果	拡充																																																									
の	現状維持				レ																																																					
方向	縮小																																																									
性	休廃止																																																									

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳沢昭弘
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	下水道整備事業	事業期間	平成 S55 ~ 年度	整理番号	05040501
担当部署	都市建設部	水道課	下水道整備係	作成担当者名	宮下 晶弘
				連絡先	655

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実
				細施策	02	公共下水道整備の充実
				事務事業	04	下水道整備事業
	予算事業名			会計コード	022	款 01 項 01 目 04 事業 一
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な下水道工事を進め、下水道未整備区域の解消のため公共下水道の整備・促進を図る。</li> <li>・過年度行った下水道管布設箇所の路面の舗装本復旧を行う。</li> <li>・公共下水道供用開始区域内において、後年度新規受益者となった土地に公共汚水枡の設置を行う。</li> </ul>				
	現状と背景 （どうして）	下水道整備計画に基づき、下水道未整備区域の面整備を進める。				
	目的	対象	受益者 （誰のために）	下水道整備区域内の未整備地域住民		
			対象 （直接働きかける）	下水道未整備区域の住民に対し、早期の下水道普及を図る。		
			意図 （どんな状態にしたいか）	下水道未整備区域の下水道本管を整備し、下水道普及率を上げることにより、公共水域の環境保全及び地域住民の衛生的生活を保障する。		
	手段・方法 （どうやって）	下水道本管布設工事を進め、下水道未供用地区の解消を図る。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		未整備区域の下水道本管工事	目標工事延長	m	計画工事延長	
		未整備区域の下水道本管理設	工事発注	%	実施工事延長/計画工事延長	100
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		未整備区域の解消	整備率	%	年度未整備率/年度末目標整備率	100

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）			
事業費等 (a)	円	80,832,282	34,446,707	32,540,325	49,522,840	65,900,000			
財源内訳									
国庫支出金	円								
県支出金	円								
地方債	円	68,515,180	26,600,000	29,700,000	45,500,000	59,310,000			
その他特定財源	円	12,317,102	7,846,707	2,840,325	4,022,840	6,590,000			
一般財源	円								
職員数	人								
正規職員	人	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30			
嘱託職員	人								
臨時職員	人								
合計	人	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30			
対象（者）数									
延利用（者）数 (b)									
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-			
受益者負担額	円								
市民一人当たりのコスト	円	1,440.00	615.00	583.00	892.00	1,366.00			
D （ ）	活動指標	目標工事延長	目標	m	2,175	1,501	1,240	1,300	500
			実績	m	1,903	918	864	950	500
		達成率	%	87.49	61.16	69.68	73.08	100.00	
	工事発注	目標	%	100	100	100	100	100	
		実績	%	85	85	80	80	100	
		達成率	%	85.00	85.00	80.00	80.00	100.00	
成果指標	整備率	目標	%	100	100	100	100	100	
		実績	%	77	78	79	80	81	
	達成率	%	77.00	78.00	79.00	80.00	81.00		
備考	目標	-							
	実績	-							
達成率	%	-	-	-	-	-			
下水道未整備区域の解消が徐々にされており、下水道整備率及び普及率も増加している。									

事務事業名	下水道整備事業	事業期間	平成 S55 ~	年度	整理番号	05040501	
担当部署	都市建設部	水道課	下水道整備係	作成担当者名	宮下 晶 弘	連絡先	655

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・舗装復旧工事の早期発注・完了。 ・未整備地区内の下水道本管整備	・舗装復旧工事 5件発注 1件工事完了 ・安国寺、玉川長峰地区の下水道本管工事発注	
第2期	・舗装復旧工事の早期発注・完了。 ・未整備地区内の下水道本管整備	・舗装復旧工事 4件工事完了 ・安国寺、玉川長峰地区の下水道本管工事完了 ・糸萱下水道未整備地権者交渉	
第3期	・舗装復旧工事の早期発注・完了。 ・未整備地区内の下水道本管整備	・舗装復旧工事 3件工事完了 ・須栗平、南大塩地区の下水道本管工事完了	
第4期	・未整備地区内の下水道本管整備	・舗装復旧工事 3件工事完了 ・糸萱、槻木、山口地区の下水道本管工事完了	

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	<p>下水道普及率は96.7%を超えたが、より施工条件の悪い箇所や市道用地の未登記により、下水道工事が着手できない場所等があり、より下水道整備が困難な場所が残っている。これらの箇所を根気良く解決するには、時間を要することが懸念される。また、小規模工事が大半を占め現地に合わせた工法や集約的工事発注やコストの縮減に努めなければならない。</p> <p>合併浄化槽の検討を踏まえた上で、下水道の未供用地域解消のため、本事業を継続し、努力していく必要がある。</p>															
CH E C K	<p>記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要</p> <p>前年度総合評価判定 前年度評価シート整理番号 05040501</p>															

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	前年度改革・改善策の実施状況	前年度細施策評価における今後の方向性								

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 ( A C T I O N )	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	今後の方向性	成 果 の 方 向 性 休 廃 止	①	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性	② ③ ④	⑤ ⑥ ⑧	⑦ ⑨ ⑩	成 果 の 方 向 性 休 廃 止		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性
改革・改善策	<p>下水道を普及することは、公共水域の保全や衛生的で快適な都市生活を営むためには必要不可欠なこととして、地域住民に保障しなければならない。</p> <p>今後は、未整備地域の見直しを行い、新たな解決方法を検討し、最善策を見出し、未整備地域の解消を行いたい。</p>					<p>下水道を普及することは、公共水域の保全や衛生的で快適な都市生活を営むためには必要不可欠なこととして、地域住民に保障しなければならない。</p> <p>今後は、未整備地域の見直しを行い、新たな解決方法を検討し、最善策を見出し、未整備地域の解消を行いたい。</p>				

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	諏訪湖流域下水道処理場等建設費負担金	事業期間	平成 S46 ~ 年度	整理番号	05040104
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	久保田 好康
				連絡先	652

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実
				細施策	02	公共下水道整備の充実
				事務事業	04	下水道整備事業
	予算事業名			会計コード	022	款 項 目 事業
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	諏訪湖流域下水道は、昭和46年に諏訪湖に代表される公共用水域の水質保全、生活環境の整備を目的として事業に着手されました。現在、立科町が加わり3市2町1村が処理区域として事業が継続されています。諏訪湖流域下水道は、いくつもの市町村が共同で汚水を処理するため、県が主体となり処理場等を建設し、その事業費に対して構成市町村が計画面積、計画汚水量の割合で建設費を負担しています。				
	現状と背景 （どうして）	諏訪地域は、各市町村の汚水を諏訪市の豊田処理場で処理する流域下水道を採用しているため、県が主体で進める処理場等の事業に対する費用を負担する必要があります。				
	目的	受益者 （誰のために）	下水道区域内の住民			
		対象 （直接働きかける）	市内から排出される汚水			
		意図 （どんな状態にしたいか）	諏訪湖に代表される公共用水域の水質保全、快適な生活環境の実現。			
	手段・方法 （どうやって）	処理場等の老朽化に伴う突然の停止等の予防として、長寿命化対策を行うなど施設の延命化を図りながら、改築更新を進めていきます。建設費負担金は、構成市町村がその事業に対して負担するものです。				
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		下水道を利用可能な市民	普及率	%	下水道処理区域内人口/行政区域内人口	98
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		下水道を利用できる市民	水洗化率	%	水洗化人口/行政区域内人口	98

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）			
事業費等 (a)	円	23,134,773	46,505,217	122,613,000	31,427,197	49,021,000			
財源内訳									
国庫支出金	円								
県支出金	円								
地方債	円	16,100,000	46,500,000	122,600,000	22,900,000	44,000,000			
その他特定財源	円	7,034,773	5,217	13,000	8,527,197	5,021,000			
一般財源	円								
職員数	人								
正規職員	人								
嘱託職員	人								
臨時職員	人								
合計	人								
対象（者）数									
延利用（者）数 (b)									
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-			
受益者負担額	円								
市民一人当たりのコスト	円	412.00	831.00	2,198.00	566.00	885.00			
D （ ）	活動指標	普及率	目標	%	98	98	98	98	98
			実績	%	97	97	97	97	97
	達成率	%	98.98	98.98	98.98	98.98	98.98		
	目標	-							
実績	-								
達成率	%	-	-	-	-	-			
O （ ）	成果指標	水洗化率	目標	%	98	98	98	98	98
			実績	%	96	96	96	96	96
	達成率	%	97.96	97.96	97.96	97.96	97.96		
	目標	-							
実績	-								
達成率	%	-	-	-	-	-			
備考									

事務事業名	諏訪湖流域下水道処理場等建設費負担金	事業期間	平成 S46 ~	年度	整理番号	05040104	
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	久保田好康	連絡先	652

期	目標	実績	課題
第1期	特になし	特になし	特になし
第2期	特になし	特になし	特になし
第3期	特になし	特になし	特になし
第4期	特になし	特になし	特になし

事中評価																						
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>拡充</td> <td></td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	拡充		②	⑤	⑦	現状維持		③	⑥	⑨	縮小		④	⑧	⑩	休廃止	①			
今後の方向性	拡充			②	⑤	⑦																
	現状維持			③	⑥	⑨																
	縮小			④	⑧	⑩																
	休廃止	①																				
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																					

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																

課題	細施策評価前					細施策評価後										
	建設費負担金の算定方法で、現在、計画面積割50%、計画汚水量割50%となっています。しかし、雨水の入る合流式ではないため、計画面積割が建設費負担金の算定のもととなることに疑問を感じます。今後、機会があれば建設費負担金の算定について、計画汚水量割100%となるように協議をすることが必要です。															

総合評価	細施策評価前					細施策評価後									
	諏訪湖流域関連茅野市公共下水道は、諏訪湖流域下水道区域内であり、本市下水道のすべてをカバーしています。今後も、流域下水道事業に必要な建設事業に対して負担していくことが必要だと考えます。						諏訪湖流域関連茅野市公共下水道は、諏訪湖流域下水道区域内であり、本市下水道のすべてをカバーしています。今後も、流域下水道事業に必要な建設事業に対して負担していくことが必要だと考えます。								

改革・改善の方向性	細施策評価前					細施策評価後				
	成果の方向性	拡充		②	⑤	⑦	成果の方向性	拡充		
方向性	現状維持		③	⑥	⑨	現状維持				レ
	縮小		④	⑧	⑩	縮小				
	休廃止	①				休廃止				

改革・改善策	細施策評価前					細施策評価後				
	諏訪湖流域下水道は、本市の汚水処理を行っていくために不可欠の事業であるため、流域下水道の建設事業については、今後も継続していく必要があります。県が事業主体であるが、多額の負担金を支出していることから、より効率的な事業運営ができるように促進協議会などで意見交換を重ねていく必要があります。						諏訪湖流域下水道は、本市の汚水処理を行っていくために不可欠の事業であるため、流域下水道の建設事業については、今後も継続していく必要があります。県が事業主体であるが、多額の負担金を支出していることから、より効率的な事業運営ができるように促進協議会などで意見交換を重ねていく必要があります。			

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳沢昭弘
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	公共下水道保持事業	事業期間	平成 7 ~ 年度	整理番号	05040503
担当部署	都市建設部	水道課	下水道整備係	作成担当者名	宮下 晶弘
				連絡先	655

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
			施策 04 第4節 上・下水道の整備充実								
			細施策 02 公共下水道整備の充実								
			事務事業 04 下水道整備事業								
	予算事業名		会計コード	022	款	01	項	01	目	05	事業
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	通常の下水道工事は、国庫補助事業や単独事業で行われ、これらの事業の財源は、国庫補助金、起債及び自己財源で充当される。しかしこの事業は、国庫補助事業や起債対象とならない下水道施設の保持に必要な工事である。本事業の対象工事は、道路改良等による下水道管渠布設替え等の補償工事、下水道中継ポンプ場の施設更新工事及び下水道事業認可区域外の下水道工事である。										
現状と背景 （どうして）	公共下水道施設は都市施設としてその機能を失うことはできないので、その保持に必要な工事である。										
目的	対象	受益者 （誰のために）	公共下水道の受益者。								
		対象 （直接働きかける）	公共下水道施設全般。								
		意図 （どんな状態にしたいか）	都市施設としての公共下水道機能の保持。								
手段・方法 （どうやって）	道路改良等の下水道以外の外的要素が要因となるため、長期的な計画事業とならないため、要因の個々に対する保持工事となる。										
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値	
		公共下水道施設の保持に必要な対処対応件数	対応率	%	対応件数/事業対象件数＝					100	
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など					最終目標値	
		既存の公共下水道施設の保持が行われている事	保持率	%	機能保持件数/対応件数＝					100	

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）		
実 施 状 況	事業費等 (a)	円	49,984,560	38,886,480	26,278,560	62,748,000	119,930,000		
	国庫支出金	円							
	県支出金	円							
	地方債	円							
	その他特定財源	円	49,984,560	38,886,480	26,278,560	62,748,000	119,930,000		
	一般財源	円							
職 員 数	正規職員	人	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50		
	嘱託職員	人							
	臨時職員	人							
合	人	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50			
D （ ）	対象（者）数								
	延利用（者）数 (b)								
	単位コスト (a)/(b)	円	—	—	—	—	—		
	受益者負担額	円							
O （ ）	活動指標	対応率	目標	%	100	100	100	100	100
			実績	%	67	100	100	100	100
		達成率	%	67.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
	—	目標	目標	—					
			実績	—					
		達成率	%	—	—	—	—	—	
	—	目標	目標	—					
			実績	—					
		達成率	%	—	—	—	—	—	
	成果指標	保持率	目標	%	100	100	100	100	100
			実績	%	80	100	100	100	100
		達成率	%	80.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
—	目標	目標	—						
		実績	—						
達成率	%	—	—	—	—	—			
備考	工事の要因が外的なものが多く、計画的な事業ではないが、必要不可欠な事業である。								

事務事業名	公共下水道保持事業	事業期間	平成 7 ~	年度	整理番号	05040503	
担当部署	都市建設部	水道課	下水道整備係	作成担当者名	宮下 晶 弘	連絡先	655

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・宮川茅野県道拡幅工事に伴う、公共汚水樹延伸工事の協議、工事設計・発注・完了	・宮川茅野県道拡幅工事発注 4月 工事完了6月	
第2期	・車山第5ポンプ場更新工事発注 ・坂室、神之原3ポンプ場更新工事発注	・車山 第5ポンプ場 工事完了 7月	
第3期	・建設課道路改良に伴う仲町布設替工事発注 ・宮川茅野橋架替工事に伴う布設替工事発注	・仲町布設替工事完了 12月 ・宮川茅野布設替完了 12月	
第4期	・仲町雨水渠更生工事発注・完了	・仲町雨水渠更生工事完了 3月	

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A

課 題	道路新設及び改良等の要因の起因者は、国や県であり、計画段階での調整や布設替えに伴う設計委託が必要となる。また、工事発注も起因者に合わせる必要が生じる。財源として、起因者に補償費を求めることができるが、国などは監督処分を求める場合がある。	記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定		
前年度評価シート整理番号	05040503	

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	既存施設の保持には、維持管理的なものもあるが、既存施設に不具合が生じたり場合の改築や、効率を良くするための布設替え等もあり、今後は、施設の延命化を考えた事業計画も必要と考えます。						既存施設の保持には、維持管理的なものもあるが、既存施設に不具合が生じたり場合の改築や、効率を良くするための布設替え等もあり、今後は、施設の延命化を考えた事業計画も必要と考えます。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後					
	今後の方向性	成 果 の 方 向 性 拡 充		②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性 拡 充				
	現 状 維 持		③	⑥	⑨	現 状 維 持			レ		
	縮 小		④	⑧	⑩	縮 小					
	休 廃 止	①				休 廃 止					
			皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性			
改革・改善策	受益者である市民のために、公共下水道施設を保持していくことは、下水道管理者の義務であり、永年続く事業です。今後も、現状維持のまま、その都度問題を解決していく必要がある。					受益者である市民のために、公共下水道施設を保持していくことは、下水道管理者の義務であり、永年続く事業です。今後も、現状維持のまま、その都度問題を解決していく必要がある。					

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------



平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	下水道施設維持管理事業	事業期間	平成 29 ~ 年度	整理番号	05040402
担当部署	都市建設部	水道課	下水道管理係	作成担当者名	藤 森 龍
				連絡先	654

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり									
			施策	04	第4節 上・下水道の整備充実									
			細施策	02	公共下水道整備の充実									
			事務事業	02	接続率向上事業									
	予算事業名				会計コード	022	款	01	項	03	目	01	事業	02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	市内に埋設されている下水道管渠内の点検調査を行い不具合箇所の補修・清掃、道路上に設置されているマンホール鉄ふたの更新、中継ポンプ場を含め70箇所のポンプ場の清掃・点検及びマンホール周辺の舗装の補修を行っています。												
	現状と背景 （どうして）	茅野市公共下水道は供用開始から30年以上経過しており、下水道管渠、中継ポンプ場を含め70箇所のマンホールポンプ場の適切な維持管理（清掃・点検・補修・修理）が求められています。また、道路上のマンホール鉄蓋及び周りの舗装の傷みについて												
	目的 （どんな状態にしたいか）	受益者 （誰のために）	下水道利用者・道路利用者											
		対象 （直接働きかける）	下水道施設											
	意図	破損、閉塞、故障、陥没事故がなく、汚水を問題なく流し処理できる状態を保つようにしていきます。												
	手段・方法 （どうやって）	茅野市公共下水道、場外ポンプ場施設の適切な維持管理（不具合箇所の随時補修・修繕）を行うこと。また、毎年発生している不明水を減らす対策として、防水タイプの鉄蓋に交換して行きます。												
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		施設の適切な維持管理に必要な点検・清掃・補修・修繕	点検・清掃・補修・修繕の業務日数	日	下水道管渠 場外ポンプ施設70箇所/4				50					
		マンホール鉄蓋交換	マンホール鉄蓋設置交換	組	80組/年				80					
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		下水を問題なく流せた日数	公共下水道施設を正常に使用出来た日数	日					365					

実施状況	項目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算又は決算額）	平成30年度事業計画（予算）	
			事業費等 (a)	円	56,592,611	66,749,319	84,890,260	87,524,049
財源内訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	56,592,611	66,749,319	84,890,260	87,524,049	102,444,000	
職員数	一般財源	円						
	正規職員	人	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	
	嘱託職員	人						
状況	臨時職員	人						
	合計	人	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	
D O （ ）	対象（者）数							
	延利用（者）数 (b)							
	単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
	受益者負担額	円						
	市民一人当たりのコスト	円	1,008.00	1,192.00	1,522.00	1,577.00	2,026.00	
	活動指標	点検・清掃・補修・修繕の業務日数	目標	日	50	50	50	50
			実績	日	30	51	50	50
		達成率	%	60.00	102.00	100.00	100.00	
		マンホール鉄蓋設置交換	目標	組	80	80	80	80
	実績		組	79	91	80	107	
達成率	%	98.75	113.75	100.00	133.75			
成果指標	公共下水道施設を正常に使用出来た日数	目標	日	365	365	365	365	
		実績	日	365	365	365	365	
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00		
	-	目標	-	-	-	-		
実績	-	-	-	-				
達成率	%	-	-	-	-			
備考								

事務事業名	下水道施設維持管理事業	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040402
担当部署	都市建設部	水道課	下水道管理係	作成担当者名	藤 森 龍	連絡先	654

期	目 標	実 績	課 題
第1期	・上原管渠清掃・中冲管渠清掃 ・マンホールポンプ施設修繕・緊急対応 ・鉄蓋、マンホール廻り補修 随時実施 ・パトロール日誌記録	・上原管渠清掃・中冲管渠清掃 ・マンホールポンプ施設修繕・緊急対応 2件 ・マンホール廻り舗装破損個所の補修 7件 ・防水タイプ鉄蓋交換 6組	マンホール廻りの舗装の傷みが出ている箇所(除雪路線等)の舗装の点検・補修を行う。
第2期	・宮川地区官渠清掃 ・マンホールポンプ施設修繕(草刈り等)・緊急対応 ・鉄蓋、マンホール廻り補修 随時実施 ・パトロール日誌記録	・宮川地区管渠清掃 ・公共下水道水管橋用地草刈り ・マンホール廻り舗装破損個所の補修 12件 ・防水タイプ鉄蓋への交換 43組	建設課等の舗装工事発注が多いため、除雪路線を優先し、舗装やりかえのタイミングで鉄蓋交換を実施していく。
第3期	・上原管渠清掃・中冲管渠清掃 ・マンホールポンプ施設修繕・緊急対応 ・マンホールポンプ施設点検・清掃70箇所 ・鉄蓋、マンホール廻り補修 随時実施	・上原管渠清掃、中冲管渠清掃、中河原管渠清掃 ・マンホールポンプ施設の緊急対応 3件 ・マンホールポンプ施設点検・清掃70箇所 ・マンホール廻り舗装破損個所の補修 5件 ・防水タイプ鉄蓋への交換 20組	除雪時期に入る前にマンホール廻り舗装の傷みを補修できるよう、巡視点検をし補修を行う。
第4期	・上原管渠清掃・中冲管渠清掃 ・マンホールポンプ施設修繕・緊急対応 ・鉄蓋、マンホール廻り補修 随時実施 ・パトロール日誌記録	・上原管渠清掃、中冲管渠清掃、丸山管渠清掃 ・防水タイプ鉄蓋への交換 38組 ・前宮周辺舗装工事に合わせカラーマンホール設置(13箇所)	次年度予算対応に向けての準備。

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化建設関連での発注工事にあわせ鉄蓋交換工事の対応が増えてくる予想される。	今 成 果 拡 充 後 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止 方 向 性
新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策) 汚水を問題なく流し処理できるよう、引き続き管渠清掃、マンホール廻りの舗装補修工事(区からの要望)に対応し、管渠調査で見つけた管渠修繕が必要な箇所の修繕を進めていく。	② ⑤ ⑦ ③ ⑥ ⑨ ④ ⑧ ⑩ ① 皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	
------	--

評 価 ( C H E C K )	視 点	妥 当 性				有 効 性				効 率 性				総 合 評 価 判 定			
	評価の観点	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2		3	4	判定
	チェック					4					4						4
課 題	茅野市公共下水道は供用開始から30年以上経過しており、下水道管渠、中継ポンプ場を含め70箇所のマンホールポンプ場の適切な維持管理(清掃・点検・補修・修理)が求められています。また、道路上のマンホール鉄蓋及び周りの舗装の傷みについては、迅速な交換、補修も求められています。																
記号の定義	A:計画どおり事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休・廃止の検討が必要																
前年度総合評価判定																	
前年度評価シート整理番号																	

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	公共下水道管渠及び下水道施設の定期的な維持管理を行うことにより、事故や故障等が少なくなります。					公共下水道管渠及び下水道施設の定期的な維持管理を行うことにより、事故や故障等が少なくなります。				
	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 の 方 向 性 ( A C T I O N )	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
	成果の方向性	拡 充	②	⑤	⑦	成果の方向性	拡 充			
	方向性	現 状 維 持	③	⑥	⑨	方向性	現 状 維 持		レ	
方向性	縮 小	④	⑧	⑩	方向性	縮 小				
方向性	休 廃 止	①			方向性	休 廃 止				
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性					皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				

改 革 ・ 改 善 策	前年度	本年度
下水道施設の機能を損なわないよう既存の状態での維持管理が必要であり、長期の費用対効果を検討する中で、管渠の布設替えも視野に入れる必要があります。	下水道施設の機能を損なわないよう既存の状態での維持管理が必要であり、長期の費用対効果を検討する中で、管渠の布設替えも視野に入れる必要があります。	下水道施設の機能を損なわないよう既存の状態での維持管理が必要であり、長期の費用対効果を検討する中で、管渠の布設替えも視野に入れる必要があります。

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	------	---------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	諏訪湖流域下水道処理場等維持管理費負担金	事業期間	平成 54 ~ 年度	整理番号	05040105
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	久保田 好康
				連絡先	652

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実
				細施策	02	公共下水道整備の充実
				事務事業	02	接続率向上事業
	予算事業名			会計コード	022	款 項 目 事業
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	流域下水道を維持管理する長野県に対し、本市の公共下水道から流入する汚水量に応じて流域下水道施設の維持管理費を負担しています。				
	現状と背景 （どうして）	諏訪地域は、各市町村の汚水を諏訪市の豊田処理場で処理する流域下水道を採用しているため、県が処理場等の維持管理をしています。そのため、構成市町村からの汚水の流入量に応じて維持管理費を負担しています。				
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	受益者 下水道区域内の住民			
		対象 （直接働きかける）	公共下水道から排除される汚水			
	手段・方法 （どうやって）	諏訪湖に代表される公共用水域の水質保全、快適な生活環境の実現。				
		構成市町村から排出される汚水は、県が管理する豊田処理場に集約され、効率かつ高度な処理を行っています。				
N （ ）	評価指標の作成	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		下水道を利用できる市民	水洗化率	%	水洗化人口/行政区内人口	98
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		下水道有収水量	有収水量	千㎡	下水道使用料を算定するための汚水量	8,653

項 目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
事業費等 (a)	円	407,624,980	423,576,000	435,448,952	450,668,363	463,536,000	
財源内訳							
国庫支出金	円						
県支出金	円						
地方債	円						
その他特定財源	円	407,624,980	423,576,000	435,448,952	450,668,363	463,536,000	
一般財源	円						
職員数	人						
正規職員	人						
嘱託職員	人						
臨時職員	人						
合計	人						
対象（者）数							
延利用（者）数 (b)							
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円						
市民一人当たりのコスト	円	7,260.00	7,567.00	7,807.00	8,118.00	8,368.00	
D （ ）	活動指標	水洗化率	目標	%	98	98	98
			実績	%	95	96	96
		達成率	%	96.94	97.96	97.96	97.96
	-	-	目標	-			
			実績	-			
		達成率	%	-	-	-	-
O （ ）	成果指標	有収水量	目標	千㎡	8,653	8,653	8,653
			実績	千㎡	7,166	6,962	7,172
		達成率	%	82.82	80.46	82.88	83.36
	-	-	目標	-			
			実績	-			
		達成率	%	-	-	-	-
備考							

事務事業名	諏訪湖流域下水道処理場等維持管理費負担金	事業期間	平成 54 ~	年度	整理番号	05040105	
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	久保田好康	連絡先	652

期	目標	実績	課題
第1期	特になし	特になし	特になし
第2期	特になし	特になし	特になし
第3期	特になし	特になし	特になし
第4期	特になし	特になし	特になし

事中評価																										
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td></td> <td colspan="3">皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	今	成果の方向性	②	⑤	⑦	後	現状維持	③	⑥	⑨	の	縮小	④	⑧	⑩	方	休廃止	①			向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性		
今	成果の方向性	②	⑤	⑦																						
後	現状維持	③	⑥	⑨																						
の	縮小	④	⑧	⑩																						
方	休廃止	①																								
向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																								
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）																										

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	
評価の観点					4					4					4	A
チェック																
課題	<p>流域下水道の維持管理費負担金は、維持管理に要する経費と有収水量をもとに単価を設定するため、今後の人口減少や節水意識の向上による有収水量の減少に伴う単価の値上げが懸念される。</p>															記号の定義 A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方に改善が必要 C：事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
前年度総合評価判定																
前年度評価シート整理番号																

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	<p>諏訪湖流域関連茅野市公共下水道は、諏訪湖流域下水道区域内であり、本市下水道のすべてをカバーしています。今後も、流域下水道事業に必要な維持管理費に対して負担していくことが必要だと考えます。</p>						<p>諏訪湖流域関連茅野市公共下水道は、諏訪湖流域下水道区域内であり、本市下水道のすべてをカバーしています。今後も、流域下水道事業に必要な維持管理費に対して負担していくことが必要だと考えます。</p>			
前年度改革・改善策の実施状況	-					前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性（ACTION）	細施策評価前					細施策評価後																																																						
	<p>諏訪湖流域下水道は、本市の汚水処理を行っていくために不可欠の事業であるため、流域下水道の建設事業については、今後も継続していく必要があります。県が事業主体であるが、多額の負担金を支出していることから、より効率的な事業運営ができるように促進協議会などで意見交換を重ねていく必要があります。</p>						<p>諏訪湖流域下水道は、本市の汚水処理を行っていくために不可欠の事業であるため、流域下水道の建設事業については、今後も継続していく必要があります。県が事業主体であるが、多額の負担金を支出していることから、より効率的な事業運営ができるように促進協議会などで意見交換を重ねていく必要があります。</p>																																																					
<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td></td> <td colspan="3">皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</td> </tr> </table>	今	成果の方向性	②	⑤	⑦	後	現状維持	③	⑥	⑨	の	縮小	④	⑧	⑩	方	休廃止	①			向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性								<table border="1"> <tr> <td>今</td> <td>成果の方向性</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>後</td> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td>レ</td> </tr> <tr> <td>の</td> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>方</td> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>向</td> <td></td> <td colspan="3">皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</td> </tr> </table>					今	成果の方向性				後	現状維持			レ	の	縮小				方	休廃止				向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性		
今	成果の方向性	②	⑤	⑦																																																								
後	現状維持	③	⑥	⑨																																																								
の	縮小	④	⑧	⑩																																																								
方	休廃止	①																																																										
向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																																																										
今	成果の方向性																																																											
後	現状維持			レ																																																								
の	縮小																																																											
方	休廃止																																																											
向		皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性																																																										

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳沢昭弘
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

下水道事業会計【茅野市】

事務事業名	下水道事業経営管理事務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040103
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	小松輝彦	連絡先	652

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策	05	第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり							
				施策	04	第4節 上・下水道の整備充実							
				細施策	02	公共下水道整備の充実							
				事務事業	05	-							
	予算事業名			会計コード	022	款	01	項	01	目	01	事業	02
	事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	下水道事業を進めるためには財政計画、財源確保、経理など、経営管理からの視点や計画管理が必要になります。そのため の事務を行っています。											
	現状と背景 （どうして）	下水道事業を営営するにあたっては、健全な財政を維持するために投資計画、投資する財源の確保、適正な経理など、経営 管理の視点が必要となります。											
	目的 （どんな状態にしたいか）	対象 （誰のために）	下水道利用者										
		対象 （直接働きかける）	下水道事業										
		意図	健全な事業経営										
	手段・方法 （どうやって）	下水道事業の財政計画、国庫補助金申請・起債借入等による建設財源の確保、経理など下水道事業の経営管理を行います。 (1) 財政計画の策定（投資計画、維持管理計画、使用料設定 他） (2) 予算・決算の作成 (3) 使用料の設定・改定 (4) 国庫補助金申請・起債借入等による建設財源の確保 (5) 経理事務											
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		財政計画の策定	経常収支	千円	経常収支を黒字とする			100					
		財政計画の策定	累積資金過不足額	千円	累積資金過不足額を黒字とする			0					
	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など			最終目標値					
		使用料収入による汚水処理費の回収	使用料回収率	%	使用料収入で汚水処理費（維持管理及び資本費を含む）を賄うことができる割合			100					
		決算	経常収支	千円	経常収支を黒字とする			100					

項	目	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（予算 又は決算額）	平成30年度 事業計画（予算）	
実 施 状 況 （ D O ）	事業費等 (a)	円	1,748,446,757	1,661,902,808	1,619,417,000	1,496,347,223	1,486,531,000	
	財源内訳							
	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	668,446,757	661,902,808	719,417,000	676,347,223	766,531,000	
	一般財源	円	1,080,000,000	1,000,000,000	900,000,000	820,000,000	720,000,000	
	職員数	人	2.20	1.50	1.50	1.50	1.50	
	正規職員	人						
	嘱託職員	人						
臨時職員	人							
合計	人	2.20	1.50	1.50	1.50	1.50		
対象（者）数								
延利用（者）数 (b)								
単位コスト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-	-	
受益者負担額	円							
市民一人当たりのコスト	円	31,140.00	29,687.00	29,035.00	26,954.00	27,039.00		
活動指標	経常収支	目標	千円	100	100	100	100	100
		実績	千円	214,802	190,761	154,114	110,909	110,909
	達成率	%	214802.00	190761.00	154114.00	110909.00	110909.00	
	累積資金過不足額	目標	千円	0	0	0	0	0
		実績	千円	831,061	910,543	945,717	870,774	870,774
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
基準外繰入額	目標	千円	0	0	0	0	0	
	実績	千円	0	0	0	0	0	
達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!		
成果指標	使用料回収率	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	126	147	136	137	137
	達成率	%	126.00	147.00	136.00	137.00	137.00	
	経常収支	目標	千円	100	100	100	100	100
実績		千円	214,802	190,761	154,114	110,909	110,909	
達成率	%	214,802.00	190,761.00	154,114.00	110,909.00	110,909.00		
備考								

事務事業名	下水道事業経営管理事務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040103
担当部署	都市建設部	水道課	庶務経営係	作成担当者名	小松輝彦	連絡先	652

期	目標	実績	課題
第1期	平成28年度決算書を作成する。	平成28年度決算書を作成した。	特になし
第2期	決算の内容を分析し次年度へつなげる。	決算内容を基に後年度の財政計画を作成した。	特になし
第3期	平成30年度の予算要求	予算要求書の提出	特になし
第4期	平成30年度予算書の作成	予算書の作成	特になし

事中評価																		
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化	<table border="1"> <tr> <td rowspan="4">今後の方向性</td> <td>拡充</td> <td>②</td> <td>⑤</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td>③</td> <td>⑥</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td>④</td> <td>⑧</td> <td>⑩</td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td>①</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	今後の方向性	拡充	②	⑤	⑦	現状維持	③	⑥	⑨	縮小	④	⑧	⑩	休廃止	①		
今後の方向性	拡充		②	⑤	⑦													
	現状維持		③	⑥	⑨													
	縮小		④	⑧	⑩													
	休廃止	①																
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策）	<p>皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性</p>																	

評価年度	
------	--

視点	妥当性					有効性					効率性					総合評価判定	
	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定	1	2	3	4	判定		
評価の観点					4					4					4	A	
チェック					4					4					4		
課題	平成29年度に、諏訪湖流域下水道の建設費負担金の割合について協議を申し出ました。それは、処理場の建設の基となるのは計画汚水量だけで、計画面積は建設時等に影響しません。しかしながら、現在、処理場の建設費の按分は、計画面積が入っているからです。平成30年度に構成市町村で協議をしますが、一番合理的な割合にすることが必要です。															記号の定義	A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模・内容・実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要
																前年度総合評価判定	
																前年度評価シート整理番号	05040102

総合評価	細施策評価前					細施策評価後				
	現在、単年度及び累積の欠損も生じておらず、一般会計からの繰入金も大きく減少しています。今後も、現状の事務事業を継続することが適当だと考えます。						現在、単年度及び累積の欠損も生じておらず、一般会計からの繰入金も大きく減少しています。今後も、現状の事務事業を継続することが適当だと考えます。			
前年度改革・改善策の実施状況						前年度細施策評価における今後の方向性				

改革・改善の方向性(ACTION)	細施策評価前					細施策評価後				
	今後の方向性	拡充		②	⑤	⑦	拡充			
現状維持			③	⑥	⑨	現状維持			レ	
縮小			④	⑧	⑩	縮小				
休廃止		①				休廃止				
	皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性					皆減縮小現状維持拡大 コスト投入の方向性				
改革・改善策	県内でもいち早く下水道事業に地方公営企業法の全部適用を行うなど、確実に改革・改善を図っています。今後は、より一層のコストを意識することが必要だと考えます。					県内でもいち早く下水道事業に地方公営企業法の全部適用を行うなど、確実に改革・改善を図っています。今後は、より一層のコストを意識することが必要だと考えます。				

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	水道課長	柳沢昭弘
---------	------------	---------	------	------

平成29年度事務事業評価シート（一般事務事業用）

【白樺湖下水道組合】

事務事業名	白樺湖下水道組合施設維持管理業務	事業期間	平成 〇〇 年度	整理番号	05040607
担当部署	白樺湖下水道組合事務局	作成担当者名	大久保和真	連絡先	657

計 画 （ P L A N ）	市民プランにおける位置づけ	有	政策体系	政策 05 第5章 快適で安らぎのある高原都市づくり		
			施策 04 第4節 上・下水道の整備充実			
			細施策 03 白樺湖特定環境保全公共下水道の諏訪湖流域下水道への接続			
			事務事業 02 維持管理事業			
予 算 事 業 名	下水道終末処理場(白樺湖浄化センター)、場外ポンプ施設および下水道管渠等の下水道施設の維持管理			会計コード 一 款 03 項 01 目 01 事業 01		
事務事業の概要 (簡潔にわかりやすく)	下水道終末処理場(白樺湖浄化センター)、場外ポンプ施設および下水道管渠等の下水道施設の維持管理					
現 状 と 背 景 (どうして)	白樺湖浄化センターは昭和56年3月の共用開始から28年が経過しているが、場外ポンプ施設を含めて適切(低コスト)な維持管理(清掃・点検・補修・修理)を求められている。また、道路上のマンホール鉄蓋及び周りの舗装の傷みについては迅速な交換・補修も求められている。					
目 的	受 益 者 (誰のために)	下水道利用者、道路利用者				
	対 象 (直接働きかける)	下水道施設				
的 意 図 (どんな状態にしたいか)	破損、閉塞、故障、陥没事故等がなく、汚水を問題なく流下・処理出来る状態にする。					
	手 段 ・ 方 法 (どうやって)	下水道終末処理場(白樺湖浄化センター)、場外ポンプ施設および下水道管渠等の適切な維持管理(不具合箇所の随時補修・修繕)を行うこと。また、毎年発生している不明水を減らす対策として、鉄蓋を既存の雨水が入るタイプのものから、入らないタイプの新しいものへ変えていく。				
N （ ）	活動指標	行政活動の結果からつくりだすものは何?	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		施設の適切な維持管理に必要な日常点検	日常点検業務日数	日	白樺湖下水道は、平成27年より諏訪湖流域下水へ接続していることから、事業拡大という	365
		新規のマンホール設置	マンホール設置数	枚	白樺湖下水道では、多くの不明水が毎年発生している。	
	成果指標	成果・効果は何?	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		汚水を問題なく流化、処理できた日数	下水道施設を正常に運転出来た日数	日	必要最低限の予算の中で、処理場機器の不具合が一切無い状態での運営は難しいため、機	365
		不明水の減少	浄化センター流入水における、不明水の割合	%		0

項 目	単 位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度(予算 又は決算額)	平成30年度 事業計画(予算)		
事業費等(a)	円	162,717,804	169,303,723	47,406,422	19,042,785	24,381,000		
財 源 内 訳	国庫支出金	円						
	県支出金	円						
	地方債	円						
	その他特定財源	円	96,987,804	111,147,723	47,406,422	19,042,785	24,381,000	
職 員 数	一般財源	円	65,730,000	58,156,000				
	正規職員	人	0.80	0.90	0.90	0.90		
	嘱託職員	人						
	臨時職員	人						
合 計	人	0.80	0.90	0.90	0.90	0.90		
対 象 ( 者 ) 数								
延 利 用 ( 者 ) 数 (b)								
単 位 コ ス ト (a)/(b)	円	-	-	-	-	-		
受 益 者 負 担 額	円							
市 民 一 人 当 た り の コ ス ト	円	2,898.00	3,024.00	850.00	343.00	562.00		
D （ ）	活動指標	日常点検業務日数	目標	日	365	365	365	365
			実績	日	365	365	365	365
		達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
	マンホール設置数	目標	枚	5	5	5	5	
		実績	枚	8	5	2	0	
	達成率	%	160.00	100.00	40.00	0.00	100.00	
-	目標	-	-	-	-	-		
	実績	-	-	-	-	-		
達成率	%	-	-	-	-	-		
O （ ）	成果指標	下水道施設を正常に運転出来た日数	目標	日	365	365	365	365
			実績	日	365	365	365	365
	達成率	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
	浄化センター流入水における、不明水の割合	目標	%	-	-	-	-	
実績		%	-	-	-	-		
達成率	%	-	-	-	-	-		
備 考								

事務事業名	白樺湖下水道組合施設維持管理業務	事業期間	平成	～	年度	整理番号	05040607
担当部署	白樺湖下水道組合事務局 白樺湖下水道組合事務局	作成担当者名	大久保和真			連絡先	657

期	目標	実績	課題
第1期	マンホールポンプ施設、管渠清掃 ポンプ施設等緊急対応・修繕 白樺湖浄化センタートイレ改修 発電装置オイル交換	・池の平、車山第1ポンプ場清掃 ・車山第1ポンプ場緊急対応1件 ・浄化センタートイレ改修・仮設排水管撤去 ・発電装置オイル交換	老朽化によるポンプ場操作盤の電磁接触器等の交換が必要となる。
第2期	マンホールポンプ施設、管渠清掃 ポンプ施設等緊急対応・修繕 車山1電磁接触器交換 マンホール廻り点検	・車山5ポンプ場No.1ポンプ修繕 ・車山1ポンプ場電磁接触器交換 ・池の平ポンプ場清掃 ・池の平1件、南中継ポンプ場1件緊急対応	ポンプ施設の老朽化がすすんでいるため点検、清掃を実施して万が一の緊急対応に備える必要がある。
第3期	マンホールポンプ施設、管渠清掃 マンホール廻り点検 ポンプ施設等緊急対応・修繕	・ポンプ場運転操作緊急処置業務 ・マンホール廻り補修箇所点検 ・全ポンプ施設オイル交換	ポンプ施設の老朽化がすすんでいるため点検、清掃を実施して万が一の緊急対応に備える必要がある。
第4期	マンホールポンプ施設、管渠清掃 ポンプ施設等緊急対応・修繕	・白樺湖浄化センター除雪作業 ・ポンプ場運転操作緊急処置業務2件 ・マンホール廻り補修箇所点検	次年度の対応に向けての準備。 (廃試薬処理)

事 中 評 価	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化 老朽化している場外ポンプ施設やポンプの維持管理を、修繕やオーバーホール等最善の方法で対応をし、大きな故障・事故にならないように備える必要があります。	今 成 拡 充 後 果 の 現 状 維 持 の 方 向 性 縮 小 方 向 性 休 廃 止
新年度の実施計画・予算要求事項（改革・改善策） 定期的なパトロールを行い、修繕・オーバーホールを実施していく。	①
	皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性

評価年度	当年度
------	-----

評 価 観 点	妥 当 性					有 効 性					効 率 性					総 合 評 価 判 定
	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	1	2	3	4	判 定	
チェック					4					4					4	A
課題	白樺湖浄化センター・場外ポンプ施設について、昭和56年3月から共用を開始しており、現在老朽化が進んでいる。平成27年に諏訪湖流域下水道へ接続され既存施設の維持管理を行っており、白樺湖浄化センターについては大規模な更新工事を行わず、現存する施設の必要最低限度の補修・修繕にとどめた維持管理に努める必要があります。また、場外ポンプ場については、諏訪湖流域下水道への接続後も共用を継続するため、更新工事も含めた適切な維持管理に努める必要があります。また、白樺湖浄化センターの建物再利用も検討する必要があります。															
	前年度総合評価判定					前年度総合評価判定					前年度総合評価判定					
	前年度評価シート整理番号					前年度評価シート整理番号					前年度評価シート整理番号					

総 合 評 価	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後				
		諏訪湖流域下水道接続後も、現存する施設の必要最低限の補修・修繕にとどめた維持管理を行うことが必要です。					諏訪湖流域下水道接続後も、現存する施設の必要最低限の補修・修繕にとどめた維持管理を行うことが必要です。			
	前年度改革・改善策の実施状況					前年度細施策評価における今後の方向性				

改 革 ・ 改 善 策	細 施 策 評 価 前					細 施 策 評 価 後						
	今 後 の 方 向 性	成 果 の 方 向 性	拡 充	②	⑤	⑦	成 果 の 方 向 性	拡 充				
		現 状 維 持	③	⑥	⑨		現 状 維 持			レ		
		縮 小	④	⑧	⑩		縮 小					
		休 廃 止	①				休 廃 止					
		皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性						皆 減 縮 小 現 状 維 持 拡 大 コ ス ト 投 入 の 方 向 性				
改 革 ・ 改 善 策	・引き続き処理場と場外ポンプ施設の維持管理を行うなかで、浄化センター建物再利用の案も考える必要がある。 ・南、北中継ポンプ場の電源装置交換に合わせ、マンホールポンプに変更する案も検討する必要がある。					・引き続き処理場と場外ポンプ施設の維持管理を行うなかで、浄化センター建物再利用の案も考える必要がある。 ・南、北中継ポンプ場の電源装置交換に合わせ、マンホールポンプに変更する案も検討する必要がある。						

最終評価年月日	平成30年5月31日	最終評価責任者	白樺湖下水道組合事務局次長	柳 沢 昭 弘
---------	------------	---------	---------------	---------